



福岡歯科大学
医科歯科
総合病院概要
2023





Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

病院の理念 Mission

私たちは、地域と社会、臨床と研究、医科と歯科、過去と未来を「つなぐ病院」として、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続ける病院をめざします。

病院の基本方針 Basic Policies of the Hospital

- 1 患者中心の医療**
患者の皆様の人格を尊重した優しさのある医療を提供し、地域の信頼に応えます。
- 2 安全・安心な高度医療の提供**
医科歯科総合病院として多職種が協働し、安全・安心で高度な医療を推進します。
- 3 地域医療への貢献**
地域の医療・介護・福祉施設と連携し、地域の皆様の健康維持に努めます。
- 4 全人的医療を実践できる医療人の育成**
医療人としての誇りを持ち、患者の皆様の身になって考えることのできる医療人の育成に努めます。





福岡歯科大学医科歯科総合病院 病院長
坂上 竜資
Director of College Hospital, SAKAGAMI Ryuji

福岡歯科大学医科歯科総合病院は、2020年9月より新しい建物での診療を開始しました。皆様にも大変好評な新病院は、3階までの吹き抜け構造と正面のステンドグラスを備え、大規模災害時にも機能する免震構造となっています。また環境に配慮した建造物として、国土交通省の「サステナブル建築物先導事業(省CO2先導型)」にも採択されています。

本院はこれまで、1973年に「福岡歯科大学附属病院」として開設され、2005年からは「福岡歯科大学医科歯科総合病院」として生まれ変わりました。さらに現在では、24の医科診療科と12の専門歯科、50床の病棟からなる、全国的にも珍しい医科と歯科の総合病院となっています。また安全で安心な医療を皆様に提供すべく、2008年5月より日本医療機能評価機構認定病院となりました。

新病院は、「地域と社会をつなぐ」、「教育・研究・臨床をつなぐ」、「医科と歯科をつなぐ」、「未来へとつなぐ」をコンセプトに、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続けることをめざしています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大のなか、病院に従事する多職種の教職員が一丸となり感染対策を徹底する

ことにより、毎日の診療を行っております。

本院には医科と歯科の多くの専門医と認定医が在籍し、また種々の専門学会に認定された研修施設にもなっており、一般的な診療から高難度の診療まで各診療科が連携して対応しています。高難度の歯科インプラント治療における耳鼻咽喉科専門医へのコンサルテーションなどがその一例です。

新病院では「健診センター」を開設し、医科と歯科が連携して病気の早期発見に努めています。また、2021年4月に医科放射線診断科を開設し、256列マルチスライスCTや3.0T(テスラ)MRIなど最新の医療機器を備えました。この放射線科では、本院における診療と健診のほか、近隣の病院様からのご依頼による種々の検査や画像診断を行っています。2022年4月には、呼吸器内科を新設し、専門医による閉塞性肺疾患や喘息をはじめとした呼吸器疾患の診断と治療を行っています。新型コロナウイルスに対するワクチンの関連では、本院は基本型接種施設として、県からご依頼の医療従事者への集団接種ならびに大学関係の職域接種、市からご依頼の高齢者の皆様や一般の方々への個別接種を実施しています。

新病院では、電子カルテシステムを医科・歯科一体型に変更するなど、患者さんをトータルでサポートするためのシステム作りにも取り組んでいます。本院の2021年度の主要実績を見ると、①外来患者数:179,100人、1日平均704人(歯科471人、医科233人)、②病棟稼働率:70.3%、入院患者数:12,834人(1日平均35人)、③新患者数:16,654人(1日平均65.4人)、歯科9,900人(1日平均38.9人)、医科 6,754人(1日平均26.5人)でした。

近年、お口の健康が全身の健康に大きく寄与することが、多くの研究により広く認められています。歯周病の進行が、心臓病、肺炎、糖尿病などさまざまな病気を増悪させることや、歯を失うほどに、高齢になって寝たきりになる可能性が高くなるという報告があります。福岡歯科大学は、口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の重要性をこれまでも全国に先駆けて提唱してきました。本院は、これからも「口腔医学」の理念のもと、患者の皆様の人格を尊重した優しさのある医療を提供し、地域の皆様の信頼に応えることのできる病院となるよう努めていきます。さらに多職種が協働し、安全・安心な医療を推進するとともに、地域の医療・介護・福祉施設の皆様と連携し、地域に貢献できる病院を目指す所存でございます。今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

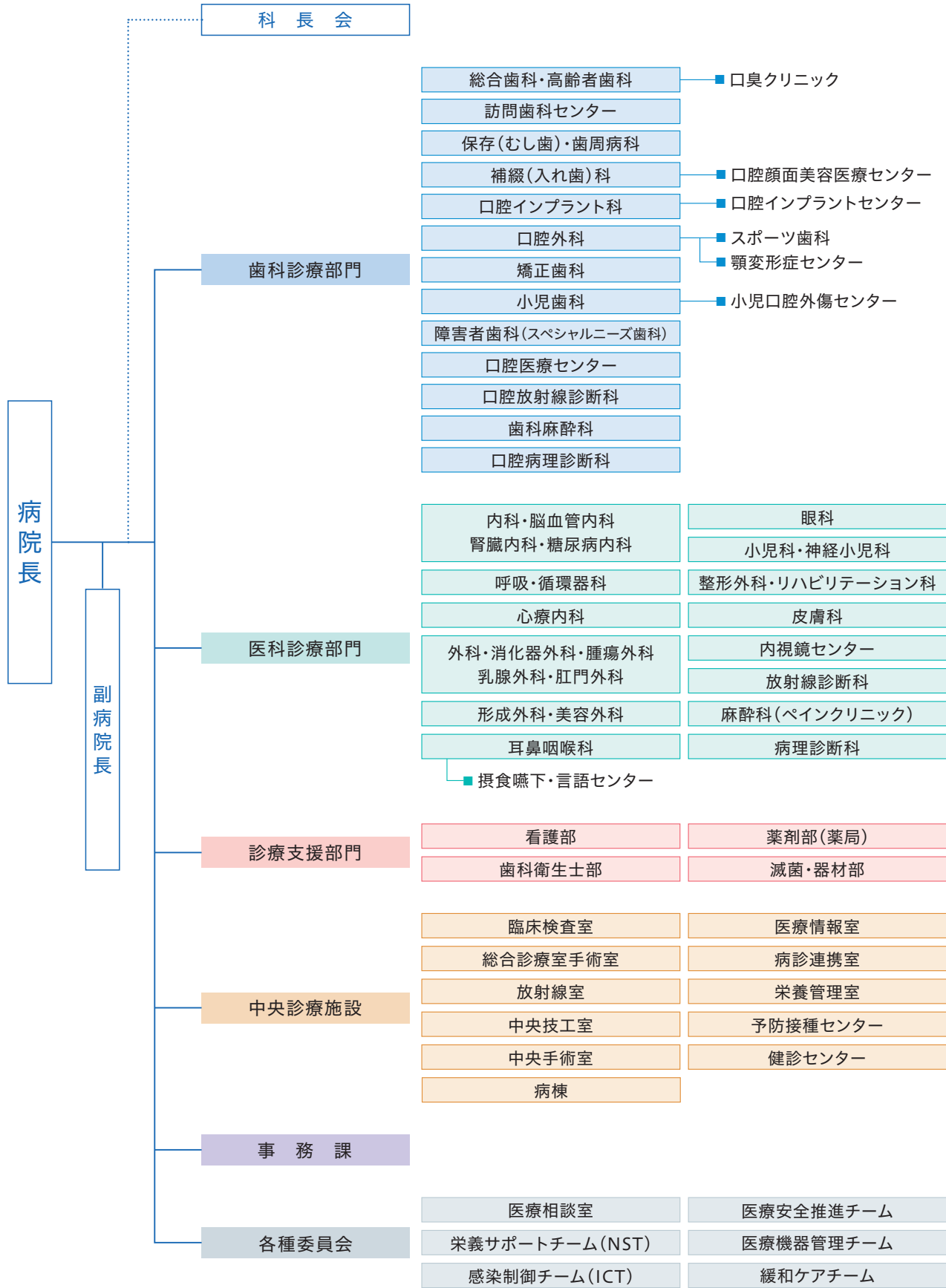
1.沿革概要	4
2.組織図	6
3.管理者および役職員	7
4.職員数	8
5.歯科医師臨床研修	8
6.診療科別患者数	9
7.診療科別症例数	10
8.施設基準届出一覧	13
9.診療部門・支援部門の紹介	14
■ 歯科診療部門	14
総合歯科・口臭クリニック	15
高齢者歯科	15
訪問歯科センター	16
保存科 歯内治療	16
歯周病科	17
補綴科(入れ歯科)・口腔顔面美容医療センター	17
口腔インプラント科	18
口腔外科・スポーツ歯科・顎変形症センター	18
矯正歯科	19
小児歯科	19
■ 小児口腔外傷センター	20
口腔医療センター	20
障害者歯科	21
口腔放射線診断科	21
歯科麻酔科	22
口腔病理診断科	22
■ 医科診療部門	23
内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病内科	24
呼吸・循環器科	24
心療内科	25
外科・消化器科	25
形成外科・美容外科	26
耳鼻咽喉科	26
■ 摂食嚥下・言語センター(ことばと飲み込みのケアセンター)	27
眼科	27
小児科・神経小児科	28
整形外科	28
リハビリテーション科	29
皮膚科	29
内視鏡センター	30
放射線診断科	30
麻酔科・ペインクリニック	31
病理診断科	31
■ 診療支援部門	32
看護部	33
歯科衛生士部	33
薬剤部(薬局)	34
滅菌・器材部	34
■ 中央診療施設	35
臨床検査室	36
栄養管理室	36
予防接種センター	37
健診センター	37
■ 事務課	38
10.医療機関の承認・指定状況	40
11.フロアマップ	43

1. 沿革概要

History

昭和47年	4月 1日	福岡歯科診療所開設 宮崎 三雄 教授 診療所長に就任
	7月27日	学校法人 福岡歯科学園 寄附行為認可、福岡歯科大学の設置認可
	10月 1日	松本 洋一 教授 初代附属病院長に就任
	10月23日	福岡歯科大学附属病院の開設認可
昭和48年	2月21日	福岡歯科大学附属病院 開設(病床30床)
	4月 1日	福岡歯科大学開学 附属病院歯科診療を開始
昭和49年	6月 1日	内科開設
昭和50年	4月 7日	歯科入院病棟開設
	7月 1日	外科開設
	8月 1日	基準寝具承認
	11月 1日	基準給食承認
昭和51年	8月24日	病床19床増設
	9月16日	内科、外科入院病棟開設
昭和52年	8月 1日	基準看護特1類承認
	10月 1日	第1期生臨床実習開始
昭和53年	4月 1日	麻酔科開設
昭和54年	2月 5日	古本 克磨 教授 附属病院長に就任
	8月 1日	病床1床増設(合計50床)
昭和60年	4月 1日	松浦 智二 教授 附属病院長に就任
昭和62年	6月 1日	卒業直後臨床研修開始
平成元年	4月 1日	吉田 穰 教授 附属病院長に就任
	10月 1日	予防歯科開設
	11月 1日	矯正歯科小児歯科診療科目の届出
平成 2年	4月 1日	松尾 繁 教授 附属病院長に就任
	6月22日	病棟避難スロープおよび霊安室設置
平成 3年	4月30日	高齢・障害者歯科開設
平成 5年	4月 1日	松本 光生 教授 附属病院長に就任
平成 6年	4月 1日	富岡 徳也 教授 附属病院長に就任
平成 7年	3月20日	磁気共鳴コンピューター断層システム(MRI)の設置
平成 8年	3月25日	顎機能検査室の設置
	5月28日	高速ヘリカルコンピューター断層システム(CT)の設置
	9月24日	口腔インプラント科開設
	11月 1日	歯科口腔外科 診療科目の届出
平成 9年	5月27日	循環器科、消化器科 診療科目の届出
平成10年	4月 1日	松本 光生 教授 附属病院長に就任
平成11年	10月 1日	口臭クリニック・スポーツ歯科・訪問歯科開設
平成12年	3月29日	病棟増改築工事の安全祈願祭施行
	4月 1日	羽生 哲也 教授 附属病院長に就任
	11月30日	病棟増改築工事完成
平成13年	4月 1日	総合歯科開設
平成14年	4月 1日	本田 武司 教授 附属病院長に就任
平成15年	2月 1日	本川 渉 教授 附属病院長に就任
平成16年	2月20日	病院3階総合診療室手術室改修工事
	3月22日	病院玄関(エントランス)周り改修工事
平成16年	3月30日	病院3階シミュレーション実習室改修工事
平成17年	1月25日	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院へ改称
	2月 1日	磁気共鳴コンピューター断層システム(MRI)の更新
	4月 1日	心療内科開設、肛門科 診療科目の届出
	7月14日	特定共同指導を受審
平成18年	2月12日	カルテ検索システム導入
	9月29日	社会保険医療担当者の個別指導の実施
平成19年	3月23日	全身用コンピューター断層撮影装置(ボリウムCTスキャンシステム)の更新 歯科用CT 3DXの設置
	4月 1日	石川 博之 教授 病院長に就任、 耳鼻咽喉科・形成外科・口腔顔面美容医療センター開設
	7月 1日	病院情報システム(HIS)稼動(オーダリングシステム開始)
平成20年	5月19日	(財)日本医療機能評価機構認定証授与
平成21年	4月 1日	本川 渉 教授 病院長に就任
平成22年	4月 1日	松浦 正朗 教授 病院長に就任、 眼科開設、放射線診断科、脳血管内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科、消化器外科、腫瘍外科、 乳腺外科、肛門外科、美容外科診療科目の届出
平成23年	4月 1日	小島 寛 教授 病院長に就任
平成24年	5月22日	病理診断科目の届出
平成25年	4月 1日	小児科、整形外科開設
	6月 7日	(財)日本医療機能評価機構更新認定
平成26年	4月 1日	阿南 壽 教授、大星 博明 教授 副病院長に就任
	11月 3日	電子カルテシステム導入、運用開始
平成27年	4月 1日	池邊 哲郎 教授 病院長に就任
	10月 1日	皮膚科開設
平成28年	4月 1日	高橋 裕 教授、篠原 徹雄 教授 副病院長に就任
	5月27日	リハビリテーション科診療科目の届出
平成29年	4月 1日	樋口 勝規 教授 副病院長に就任
	10月 1日	訪問歯科センター 開設
	11月 1日	内視鏡センター開設
平成30年	4月 1日	阿南 壽 教授、川野 庸一 教授 副病院長に就任
	5月11日	(財)日本医療機能評価機構更新認定
	10月 1日	小児口腔外傷センター開設
平成31年	4月 1日	阿南 壽 教授 病院長に就任
令和元年	10月 7日	摂食嚥下・言語センター開設
令和 2年	4月 1日	顎変形症センター開設
		中畑 高子 教授 副病院長に就任
	9月26日	新病院建築工事完成
	9月29日	新病院開院 健診センター開設
令和 3年	4月 1日	これまでの放射線診断科を口腔放射線診断科に改称し、医科診療科に対応する放射線診断科を設置、 都築 尊 教授 副病院長に就任
令和 4年	4月 1日	坂上 竜資 教授 病院長に就任、 古村 南夫 教授 副病院長に就任

2. 組織図
Organization Chart



3. 管理者および役職員
Faculty and Administrative Officials

病 院 長 | 坂上 竜資

副病院長 | 古村 南夫 都築 尊 樋口 勝規 中畑 高子

診療科長

診療科名	科長
総合歯科・高齢者歯科・口臭クリニック	米田 雅裕
訪問歯科センター	森田 浩光
保存(むし歯)・歯周病科	松崎英津子
補綴(入れ歯)科・口腔顔面美容医療センター	松浦 尚志
口腔インプラント科・口腔インプラントセンター	城戸 寛史
口腔外科・スポーツ歯科・顎変形症センター	池邊 哲郎
矯正歯科	玉置 幸雄
小児歯科・小児口腔外傷センター	岡 暁子
口腔医療センター	泉 利雄
障害者歯科	森田 浩光
口腔放射線診断科	香川 豊宏
放射線診断科	川波 哲
歯科麻酔科・麻酔科(ペインクリニック)	池田 水子
内科・脳血管内科・腎臓内科・糖尿病内科	大星 博明
呼吸・循環器科	松元幸一郎
心療内科	金光 芳郎
外科・消化器外科・腫瘍外科・乳腺外科・肛門外科	池田 哲夫
内視鏡センター	池田 哲夫
形成外科・美容外科	萩家 康弘
耳鼻咽喉科・摂食嚥下・言語センター	山野 貴史
眼科	大島 裕司
小児科・神経小児科	鳥巢 浩幸
整形外科・リハビリテーション科	西尾 淳
皮膚科	古村 南夫
口腔病理診断科・病理診断科	

施設長

施設名	施設長
臨床検査室	大星 博明
総合診療室手術室	城戸 寛史
放射線室	香川 豊宏
中央技工室	城戸 寛史
中央手術室	池田 水子
病棟	山野 貴史
医療情報室	鳥巢 浩幸
病診連携室	池田 哲夫
栄養管理室	中畑 高子
予防接種センター	岡田 賢司
健診センター	樗木 晶子

部・課長

部局・課名	部・課長
看護部	松尾 佳代 伊藤 明美
歯科衛生士部	手嶋 直美
薬剤部(薬局)	外尾 典子
滅菌・器材部	中畑 高子
病院事務課	横大路智視

4. 職員数

Number of Enrolled Staffs

歯科医師

(令和5年5月1日)

教授	准教授	講師	助教	医員	研修歯科医
20	11	31	31	68	44

医 師

(令和5年5月1日)

教授	准教授	講師	助教
15	1	4	16

医療職等

(令和5年5月1日)

薬剤師	臨床検査技師	診療放射線技師	歯科衛生士	歯科技工士	管理栄養士	視能訓練士
3	5	7	43	6	2	3
視能検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護師	ソーシャルワーカー	事務職員
1	3	1	2	57	2	21

5. 歯科医師臨床研修

Clinical Training for Dentists

プログラム数・募集定員

(令和5年5月1日)

プログラム数	募集定員	
	プログラムⅠ	プログラムⅡ
2	95	20

採用数

(令和5年5月1日)

平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
43	50	49	37	45

協力型臨床研修施設数

(令和5年5月1日)

平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
89	88	86	83	81

6. 診療科別患者数

Faculty and Administrative Officials

(令和4年度)

診療科名	外来(255.5日)		入院(365日)	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均
総合歯科	14,758	57.8	－	－
口臭クリニック	99	0.4	－	－
高齢者歯科	9,406	36.8	－	－
訪問歯科センター	5,415	21.2	－	－
保存(むし歯)・歯周病科	17,282	67.6	－	－
補綴(入れ歯)科	16,658	65.2	－	－
口腔インプラント科	8,613	33.7	18	0.0
口腔外科	17,040	66.7	4,177	11.4
スポーツ歯科	0	0.0	－	－
口腔顔面美容医療センター	0	0.0	－	－
矯正歯科	14,597	57.1	－	－
小児歯科	14,133	55.3	150	0.4
障害者歯科	4,479	17.5	29	0.1
口腔医療センター	310	1.2	－	－
歯科麻酔科	760	3.0	－	－
口腔放射線診断科	180	0.7	－	－
歯科 計	123,550	483.6	4,374	12.0
内 科	16,880	66.1	1,588	4.4
呼吸・循環器科	366	1.4	－	－
小児科	7,418	29.0	－	－
心療内科	2,957	11.6	58	0.2
外 科	3,783	14.8	3,391	9.3
整形外科	5,943	23.3	449	1.2
皮膚科	6,475	25.3	31	0.1
形成外科	1,921	7.5	29	0.1
耳鼻咽喉科	6,995	27.4	1,329	3.6
眼 科	7,394	28.9	586	1.6
麻酔科	1,614	6.3	－	－
健診センター	1,456	5.7	－	－
放射線診断科	3	0.0	－	－
医科 計	63,202	247.4	7,461	20.4
合 計	186,752	730.9	11,835	32.4

口腔 / 放射線診断科は内数のため合計に含まず

a. 年度別患者数

外 来				入 院			
平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
194,243	165,603	178,094	186,752	10,981	10,448	12,831	11,835

b. 年度別1日平均患者数

外 来				入 院			
平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
757.0	641.0	704.5	730.9	30.1	37.6	35.2	32.4

7. 診療科別症例数

Number of casesat Each Clinical Division

年間手術症例数

(令和4年)		
診療科	臨床指標	実績
歯周病科	歯周外科手術件数	94
	歯科衛生士メンテナンス件数	1,869
	全身麻酔手術症例数	合計 288
口腔外科	口腔癌	42
	口腔潜在的悪性疾患	6
	嚢胞	50
	抜歯	56
	顎変形症	62
	顎変形症関連手術	33
	顎骨骨折	4
	良性腫瘍	16
	唾液腺疾患	5
	顎骨再建・インプラント	3
	炎症	6
	その他	5
	初診患者数	3,586
小児歯科	外来手術数	4,023
	静脈内鎮静手術	135
	手術数	103
口腔医療センター	抜歯	1,968
	普通抜歯	605
	難抜歯	294
	埋伏歯抜歯	1,069
(下顎難抜歯772例を含む)		
外科・ 内視鏡センター	手術症例数	合計 138
	食道腫瘍	5
	胃癌	13
	小腸癌 その他	1
	大腸・直腸癌	33
	イレウス	2
	虫垂炎	2
	肝腫瘍	3
	膵・胆道腫瘍	3
	胆道結石	17
	ヘルニア	20
	乳癌	8
	肛門	9
	尿管遺残症	2
	その他	20
形成外科	外来手術件数	181
	レーザー治療	671
耳鼻咽喉科	口蓋扁桃摘出術	21
	内視鏡下鼻副鼻腔手術	22
	耳下腺腫瘍摘出術	4
	喉頭微細手術	4
	アデノイド摘出術	4
	甲状腺腫瘍摘出術	1
	顎下腺摘出術	5
	軟口蓋形成術	2
	嚥下機能改善手術	2
	舌腫瘍摘出術	2
	正中顎のう胞摘出術	2
	鼓膜チューブ挿入	6
	咽頭異物摘出	4

診療科	臨床指標	実績
眼科	白内障手術	201
	硝子体手術	15
	緑内障手術	12
	眼瞼手術	6
	硝子体内注射	455
整形外科	手術症例数	30

年間症例数

(令和4年)		
診療科	臨床指標	実績
口腔インプラント科	埋入本数	250～300
	オッセオインテグレーション率	99%以上
矯正歯科	外科的矯正治療の開始件数	399 (検査数 479)
訪問歯科センター	病院(提携先4病院合計)	290
	介護施設(提携先4施設合計)	1,419
	居宅	91
口腔医療センター	インプラント埋入本数	189
	オッセオインテグレーション率	98.9%
	SPT 件数	2,612
	合計	16,777
放射線診断科／ 口腔放射線診断科	一般撮影	口内法 3,848 口外法 8,751
	CT	単 純 1,133 造 影 327
	MRI	単 純 171 造 影 165
	CBCT	1,618
	US	764
	糖尿病教育入院	9
内科	頸部血管エコー件数	35
	心エコー件数	242
心療内科	外来症例数	372
	内視鏡症例数	合計 1,067
外科・ 内視鏡センター	上部	642
	小腸	2
	超音波内視鏡	12
	胆道	23
	ダブルバルーン	2
	胆道鏡	1
	下部	402
	Polypectomy	175
	ESD	21
	食道	3
摂食嚥下・言語センター	胃	10
	大腸	8
	年間嚥下リハビリテーション件数	1,761
	脳血管疾患等リハビリテーション	1,080
	がん患者リハビリテーション	511
小児科・神経小児科	摂食機能療法	170
	神経発達外来新患件数	233
	脳波検査件数	71
	WISC-IV 件数	93
麻酔科・ペインクリニック	麻酔科外来患者件数	3,077
	全身麻酔件数	633
	静脈内鎮静件数	299
口腔病理診断科・ 病理診断科	院内病理診断数(組織診)	720
	院内病理診断数(細胞診)	168
	術中迅速診断件数	37

健診センターコース別実施件数

(令和4年)		
診療科	コース／項目名	件数
歯科	口腔健診	5
	高等学校口腔健診	2,056
歯科+医科		4
医科	定期健康診断	136
	インプラント術前健診	65
	教職員定期健康診断	679
	教職員特定業務(夜勤・有害物質)健康診断	143
	教職員電離放射線健康診断	171
	教職員採用時健康診断	147
	よかドック	294
	後期高齢特定健診	134
	集合(協会けんぽ)	10
	集合(健保、共済)	10
	生活習慣特定健診(生保)	2
	福岡市胃がん検診	80
	福岡市大腸がん検診	205
	福岡市乳がん検診	167
	福岡市前立腺がん検診	26
	福岡市胃がんリスク検診	9
	その他オプション	791
合計		5,134

紹介率／逆紹介率

(令和4年)		
医科歯科	紹介率(%)	36.2%
	逆紹介割合(‰)	13.0‰
	逆紹介率(%)	14.2%

8. 施設基準届出一覧 (九州厚生局令和5年4月1日現在)
Legal Authorization of Medical Services

No.	受理届出名称	受理記号	受理番号	算定開始年月日
A. 基本診療料				
1	地域歯科診療支援病院歯科初診料	病初診	第25号	平成31年 3月 1日
2	歯科外来診療環境体制加算 2	外来環 2	第39号	平成30年10月 1日
3	歯科診療特別対応連携加算	歯特連	第20号	令和 4年 4月 1日
4	一般病棟入院基本料 4	一般入院	第5号	令和 4年 8月 1日
5	診療録管理体制加算 2	診療録2	第215号	平成22年 4月 1日
6	急性期看護補助体制加算 50対1 看護補助体制充実加算	急性看補	第194号	令和 4年 4月 1日
7	看護職員夜間配置加算 16対1 配置加算 2	看夜配	第102号	令和 4年 4月 1日
8	療養環境加算	療	第296号	令和 2年11月 1日
9	重症者等療養環境特別加算	重	第360号	令和 3年 8月 1日
10	栄養サポートチーム加算	栄養チ	第148号	平成 3年 3月 1日
11	感染対策向上加算 3 サーベイランス強化加算 連携強化加算	感染対策3	第13号	令和 4年 4月 1日
12	病棟薬剤業務実施加算 1	病棟薬1	第123号	平成29年10月 1日
13	データ提出加算 1・3 (口)	データ提	第237号	平成30年 6月 1日
14	入退院支援加算 2 入院時支援加算	入退支	第240号	令和元年 7月 1日
15	認知症ケア加算 3	認ケア	第243号	令和 2年 4月 1日
16	せん妄ハイリスク患者ケア加算	せん妄ケア	第121号	令和 3年 8月 1日
17	地域歯科診療支援病院入院加算	地歯入院	第6号	平成24年 4月 1日
B. 特掲診療料				
18	入院時食事療養／生活療養 (Ⅰ)	食	第468号	平成 3年 3月 1日
19	がん性疼痛緩和指導管理料	がん疼	第226号	平成24年 4月 1日
20	小児運動器疾患指導管理料	小運指管	第57号	令和 2年 4月 1日
21	下肢創傷処置管理料	下創管	第18号	令和 4年 9月 1日
22	ニコチン依存症管理料	ニコ	第957号	平成29年 7月 1日
23	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	両立支援	第20号	令和 4年 9月 1日
24	がん治療連携指導料	がん指	第412号	平成23年10月 1日
25	こころの連携指導料 (Ⅱ)	こ連指Ⅱ	第8号	令和 4年 4月 1日
26	薬剤管理指導料	薬	第412号	平成19年 4月 1日
27	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	医管	第529号	平成18年 4月 1日
28	歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料	在宅管	第90号	平成26年 8月 1日
29	遺伝学的検査	遺伝検	第14号	平成29年 4月 1日
30	検体検査管理加算 (Ⅰ)	検Ⅰ	第308号	平成20年 4月 1日
31	神経学的検査	神経	第175号	平成25年 4月 1日
32	ロービジョン検査判断料	ロー検	第59号	令和 4年11月 1日
33	口腔細菌定量検査	口菌検	第4号	令和 4年 4月 1日
34	有床義歯咀嚼機能検査 1 のイ	咀嚼機能1	第16号	平成28年 8月 1日
35	有床義歯咀嚼機能検査 1 のロ及び咀嚼能力検査	咀嚼能力	第16号	平成28年 8月 1日
36	有床義歯咀嚼機能検査 2 のイ	咀嚼機能2	第6号	平成30年 8月 1日
37	有床義歯咀嚼機能検査 2 のロ及び咬合圧検査	咬合圧	第20号	平成30年 8月 1日
38	精密触覚機能検査	精密触覚	第4号	平成30年 8月 1日
39	睡眠時歯科筋電図検査 (一連につき)	歯筋電図	第19号	令和 3年 9月 1日
40	画像診断管理加算 1	画Ⅰ	第126号	令和 3年 8月 1日
41	画像診断管理加算 2	画Ⅱ	第219号	令和 4年 1月 1日
42	歯科画像診断管理加算 1	歯画Ⅰ	第4号	平成18年 4月 1日
43	歯科画像診断管理加算 2	歯画Ⅱ	第1号	平成24年 4月 1日
44	遠隔画像診断	遠画	第7号	平成23年12月 1日
45	CT 撮影及びMRI 撮影	C・M	第652号	令和 4年 1月 1日
46	冠動脈 CT 撮影加算	冠動C	第106号	令和 4年 4月 1日
47	心臓MRI 撮影加算	心臓M	第79号	令和 4年 4月 1日
48	無菌製剤処理料	菌	第132号	平成20年 4月 1日
49	脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ)	脳Ⅱ	第126194号	令和 2年 3月 1日
50	運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)	運Ⅰ	第560号	令和 2年 3月 1日
51	呼吸器リハビリテーション料 (Ⅱ)	呼Ⅱ	第121号	平成26年 8月 1日
52	摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算 2	摂嚥回2	第5号	令和 4年 4月 1日
53	がん患者リハビリテーション料	がんリハ	第157号	平成30年11月 1日
54	歯科口腔リハビリテーション料 2	歯リハ2	第135号	平成26年 4月 1日
55	手術用顕微鏡加算	手顕微加	第35号	平成28年 4月 1日
56	口腔粘膜処置	口腔粘膜	第438号	平成30年 4月 1日
57	う蝕歯無痛の窩洞形成加算	う蝕無痛	第56号	平成22年 4月 1日
58	CAD／CAM 冠	歯CAD	第732号	平成26年 4月 1日
59	有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算 1 及び 2	歯技工	第337号	平成22年 4月 1日
60	緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	緑内障ド	第44号	令和元年 9月 1日
61	網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)	硝切	第16号	平成24年 4月 1日
62	上顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る) (歯科)	歯顎移	第6号	令和 3年12月 1日
63	下顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る) (歯科)			
64	ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術	ペ	第147号	平成13年 6月 1日
65	腹腔鏡下リンパ節郭清術 (側方)	腹リ傍側	第12号	令和 4年 4月 1日
66	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	早大腸	第66号	令和 4年 4月 1日
67	内視鏡的小腸ポリープ切除術	内小ポ	第17号	令和 4年 4月 1日
68	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	胃瘻造	第57号	平成26年 4月 1日
69	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	胃瘻造嚥	第81号	平成26年 6月 1日
70	歯周組織再生誘導手術	GTR	第153号	平成20年 4月 1日
71	手術時歯根面レーザー応用加算	手術歯根	第23号	平成22年 4月 1日
72	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	人工歯根	第8号	平成24年 4月 1日
73	歯根端切除手術の注3	根切顕微	第98号	平成29年 4月 1日
74	レーザー機器加算	手光機	第429号	平成30年 4月 1日
75	麻酔管理料 (Ⅰ)	麻管Ⅰ	第85号	令和 3年 7月 1日
76	歯科麻酔管理料	歯麻管	第10号	令和 2年 5月 1日
77	悪性腫瘍病理組織標本加算	悪病組	第44号	令和 4年 6月 1日
78	口腔病理診断管理加算 1	口病診Ⅰ	第1号	平成26年 6月 1日
79	クラウン・ブリッジ維持管理料	補管	第747号	平成 8年 4月 1日
80	歯科矯正診断料	矯診	第95号	平成22年 4月 1日
81	顎口腔機能診断料 (顎変形症 (顎離断等の手術を必要とするものに限る。)) の手術前後における歯科矯正に係るもの)	顎診	第1号	平成19年 6月 1日
	酸素の購入単価	酸単	第145889号	令和 4年 4月 1日

9. 診療部門・支援部門の紹介

Information for Clinical Division and Medical support Division

| 診療部門 | Clinical Division |

歯科診療部門

Dental Clinics

総合歯科・口臭クリニック

総合歯科では総合初診の患者様の対応および短期間で終了する疾患の一口腔単位の治療を行っています。総合初診では医療面接、診査等を行い、専門診療科の指導医と共に一次的な治療方針を決定します。もしも専門的な治療が必要と考えられたら最適の担当診療科へ治療を依頼します。総合歯科では口臭の検査や相談も行っています。



科長 米田 雅裕



教授 谷口 奈央



研修歯科医による治療



個室診療室



最先端の口臭測定機器

■得意分野と診療体制

総合歯科担当の症例と判断されたら、一人の歯科医師が最初から最後まで責任をもって担当します。治療終了後も同じ担当医がメンテナンスを行いますので、何でもご相談ください。口臭クリニックでは最先端の機器を用いて口臭を測定し、診断を行います(口臭クリニック昨年度36名来院)。一般歯科初診の場合は予約なしで構いませんし、紹介状がなくても大丈夫です。口臭クリニックは専用の部屋で診療を行いますので、事前の予約をお願いします。

■診療方針

総合的で、しかも患者さんに優しい治療を心がけています。歯科治療は不安なこともあります。優しく声掛けを行い丁寧に説明しますので安心してご相談ください。

■対象疾患

一般歯科(むし歯、歯周病、かぶせ物、入れ歯等)、口臭、変色歯等

■主な治療

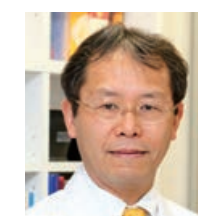
総合診療(一口腔単位の治療)、レーザー治療、ホワイトニング、口臭測定等

■学会施設認定

- 日本総合歯科学会認定施設
- 日本口臭学会認定施設
- 日本口腔衛生学会認定施設

高齢者歯科

高齢者歯科では、心臓病や脳卒中などのために血液がサラサラになる薬を飲まれている方、車椅子で移動されているために診察台に移ることが難しい方、認知症などのためになかなか口を開けてくれない方、飲み込みが悪くなってむせやすいといった方への治療を行っています。



副科長 内藤 徹



車いすで来院された患者さんに容易に対応できる診察台を完備

■得意分野

病気をお持ちのご高齢の方のむし歯の治療、抜歯、入れ歯作製や予防処置を主に行っています。車いすの方を診察台に移乗しないまま歯科治療を行うための設備や、診療中にその場でレントゲン撮影ができる治療室も備えています。また、食事の際にムセが起きやすい方の嚥下障害の診断とリハビリテーションの専門医や、さまざまな検査や治療をしても改善しない、原因の特定しにくい口の症状を専門に診るスタッフも治療を行っています。

■診療体制

日本老年歯科医学会専門医、日本歯科心身医学会専門医、日本歯周病学会専門医、日本歯科保存学会専門医などの専門性を持ったスタッフが、毎週カンファレンスを行って難しい症例に対応しています。

■診療方針

患者さんの心と身体の状態に配慮して、生活の質の維持につながるような治療を目指しています。

■対象疾患

むし歯の治療、抜歯、入れ歯作製など歯科一般の治療に加え、心と身体のバランスについても特別に配慮をする治療を行っています。

■学会施設認定

日本老年歯科医学会、日本歯科心身医学会、日本歯科保存学会の研修施設として登録されています。

訪問歯科センター

超高齢社会の現在、歯科訪問診療のニーズが高くなっています。当科は、院内での診療はもちろん、病院・介護施設・居宅等のさまざまな場所への歯科訪問診療を行っています。なお、必要に応じて当院歯科専門診療科と連携し、さまざまな口腔疾患に対応しています。



センター長 森田 浩光



訪問診療風景



全身管理下での外来診療風景

■得意分野

院内外の医科と連携を取りながら、むし歯、歯周病、義歯、抜歯等の歯科治療全般を行います。また、身体的理由により歯科外来に通院できない方、歯科のない病院(主に提携先病院)や当院医科に入院中でお口の問題をお持ちの方やがん治療(手術・抗がん剤治療・放射線療法)予定および治療中の方などに対して、診療器材を持参して歯科治療・口腔ケアや応急処置を行います。

■診療体制

日本有病者歯科学会指導医・専門医のスタッフを中心に全身管理を得意とする歯科医師・歯科衛生士が中心となって診療します。

■診療方針

医科と連携し、全身管理のもとで安心・安全な診療を行うことを基本方針としています。患者さん中心の歯科医療を行うべく、カンファレンスで最善の治療方針を検討、スタッフ間で情報共有しながら診療にあたっています。

■対象疾患

日常の歯科診療で全身的に何らかの配慮を必要とする基礎疾患を有する患者さん(有病者)の歯科治療全般に対応します。また、口腔機能低下症、摂食嚥下障害等の疾患に、適宜当院専門診療科と連携して対応しています。

■学会施設認定

- 日本有病者歯科医療学会

保存科 歯内治療

いつまでも大切な自分の歯で噛めるように治療を行い、その歯をお口の中で機能させていくのが「歯科保存治療」です。主として歯内治療(根管治療)、う蝕(むし歯)治療を行っています。また、歯の漂白(ホワイトニング)も実施しています。



教授 松崎 英津子



マイクロスコープによる根管検査

■得意分野

う蝕に対する修復治療、歯髄炎・根尖性歯周炎に対する歯内療法および歯根尖切除法などの外科的歯内療法を行っています。当院では、マイクロスコープおよび歯科用コーンビームCT装置を備え、精密な根管検査に基づく歯内療法を実施しており、近隣歯科医院からの紹介も多くいただいています。また、歯性上顎洞炎に対しては、耳鼻咽喉科・口腔外科・放射線科との連携によるチーム医療を実践しています。

■診療体制

日本歯科保存学会、日本歯内療法学会、日本外傷歯学会、日本歯周病学会で研鑽を積んでいる専門性の高いスタッフを中心に、歯内療法・保存修復を基盤とした包括的な歯科医療に取り組んでいます。

■診療方針

安心・安全で高度な歯科医療を提供します。オーダーメイド

の質の高い歯科保存治療を達成するために、最新の機器を活用した検査を実施し、病状や治療等についての十分な説明に基づくインフォームドコンセントの取得を心がけています。

■対象疾患

う蝕、根面う蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、歯内-歯周疾患、歯の破折、歯の変色など

■主な検査

歯科用コーンビームCT検査(歯専用の三次元的なエックス線検査)、マイクロスコープ(治療用顕微鏡)による根管検査など

■学会認定医・専門医

- 日本歯科保存学会専門医1名、認定医5名
- 日本歯内療法学会研修責任者1名
- 日本外傷歯学会認定医1名
- 日本歯周病学会専門医1名

歯周病科

なるべく歯を抜かずに歯を保存するような治療を心がけています。歯周病の治療、むし歯の治療、そして歯の神経や根の管の治療を中心にしています。



科長 坂上 竜資



歯周組織再生療法の診療風景

■得意分野

基本的な歯周病の治療から最新の歯周組織再生療法、審美性を回復するための歯根面の被覆術、欠損部位への歯科インプラント手術、咬合性外傷の治療などを行っています。

■診療体制

日本歯周病学会専門医・認定医がおり、月曜から金曜まで診療にあたっています。

■診療方針

患者さんの全身状態に配慮しながら、なるべく歯を抜かずに治療を進めます。治療の流れとしては、第一段階として、原因となるプラークを取り除くためのブラッシング指導や歯石取り、かみ合わせの調整などの歯周基本治療を行います。次に第二段階として、炎症がひいてもなお歯肉に不良な形態が残っている場合には歯周外科手術を行います。さらに

第三段階として、かみ合わせを回復し、揺れている歯をしっかり固定するためにかぶせ(冠)や入れ歯を作ります。最後に第四段階として、定期点検を行って、再発を防止するメンテナンスに進めてまいります。

■対象疾患

歯周病、咬合性外傷、歯肉退縮、歯髄炎、根尖性歯周炎、う蝕

■主な治療

歯周基本治療、歯周組織再生療法を含む歯周外科手術、メンテナンス、根面被覆術、歯周病患者を対象としたインプラント治療

■学会施設認定

- 日本歯周病学会
- 日本臨床歯周病学会
- 日本歯科保存学会

補綴科(入れ歯科)・口腔顔面美容医療センター

補綴科では、歯冠がむし歯で崩壊したり、歯周炎で歯を失った後に、クラウン(かぶせもの)、ブリッジ、部分床義歯(部分入れ歯)、全部床義歯(総入れ歯)を装着して、かみ合わせを回復させ、咀嚼や発音や審美を改善する治療を行っています。口腔顔面美容医療センターでは、審美を重視し、ホワイトニングやセラミッククラウンによる自費治療を行っています。



科長 松浦 尚志



デジタル技術(CAD/CAM)によるブリッジ設計

■得意分野

従来の方法によるクラウン・ブリッジ治療、部分床義歯、全部床義歯、口腔がん治療後の顎義歯。最新のデジタル技術(CAD/CAM)を用いたクラウンブリッジ治療、審美治療。

■診療体制

日本補綴歯科学会指導医、専門医、認定医、日本口腔インプラント学会専門医、日本老年歯科医学会認定医が専門的な診療に当たっています。また、日本顎顔面補綴学会認定医が口腔がんの治療後の顎義歯治療を専門に行っています。

■診療方針

患者さんのために最も適した治療を十分な説明を行った上で適切に行うことを心がけています。最先端の治療からオーダーボックスな治療まで提供いたします。

■対象疾患

歯の崩壊や喪失によって生じる咀嚼障害、審美障害、口腔がんの切除に伴う顎骨の欠損、顎関節症、歯ぎしり。

■主な治療

クラウン、ブリッジ、部分床義歯、全部床義歯、顎義歯による治療。顎関節症や歯ぎしりに対する治療。

■学会施設認定

- 日本補綴歯科学会
- 日本老年歯科医学会
- 日本顎顔面補綴学会

口腔インプラント科

デジタル機器を活用して「安心で安全なインプラント治療」を提供いたします。



科長 城戸 寛史



ナビゲーションシステムによる手術

■得意分野

正確なインプラント埋入手術を行うためにデジタル機器を導入しています。患者さんの顎の骨のCTデータを使用して、インプラントの埋入手術をシミュレーションしてインプラント埋入位置を計画します。計画通りの位置にインプラントを埋入できるように、CAD/CAM製作(コンピュータ設計で製作する方法)のドリルガイドを使用したり、ナビゲーションシステム(顎の骨の中のドリルの位置をモニターで見える装置)を使用したりします。また、上部構造(インプラントに取り付ける歯の部分)は、CAD/CAMで製作するため精度が高く、ジルコニア等の生体親和性(人体の組織となじみやすく有害性がない)の高い材料を採用しています。

■診療体制

公益社団法人日本口腔インプラント学会、公益社団法人日本顎顔面インプラント学会の専門医と指導医が診療にあた

ります。また、日本口腔インプラント学会の専門衛生士および技工士が治療をアシストします。

■診療方針

インプラント治療により、患者さんの失った歯を回復し、食べる機能、しゃべる機能および審美性の回復に努めます。また、口腔外科などの他の歯科診療科だけでなく、内科や耳鼻科などの医科と連携し、安全で安心なインプラント治療を提供します。

■学会施設認定

- 公益社団法人日本口腔インプラント学会
- 公益社団法人日本顎顔面インプラント学会

口腔外科・スポーツ歯科・顎変形症センター

口腔・顎・顔面領域にはさまざまな疾患が発生します。そのような疾患を入院下または外来通院にて、外科手術で治療します。また、口内炎などの粘膜疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患などを、全身疾患と関連付けながら診断・治療します。親知らずなどの難抜歯や全身管理が必要な有病者の抜歯も行います。



科長 池邊 哲郎



副科長 平木 昭光



手術室における口腔癌手術

■得意分野

入院下に全身麻酔や鎮静法で外科手術をします。

【**口腔がん**】 外科手術を中心に当院の摂食嚥下・言語センターや近隣の大学・総合病院と連携を行い、集学的治療を行います。また、制御率のみならず、摂食嚥下や咀嚼の改善など、術後のQOLを考慮した治療を行っています。

【**顎変形症センター**】

下顎前突症などの顎変形症に対して当院矯正歯科や矯正歯科開業医および麻酔科と連携を行いデジタル機器をもとに綿密な治療計画を策定し、精確な顎矯正手術を行っています。その他の疾患につきましても、多数の専門医や指導医が在籍し、それぞれの治療にあたります。

■診療体制

日本口腔外科学会認定医(5名)・専門医(6名)・指導医(4名)、日本口腔科学会認定医(3名)・指導医(2名)、日本顎関節学会

専門医・指導医(1名)、日本がん治療認定機構がん治療認定医(歯科口腔外科)(3名)を含む約25名で診療を行っています。

■診療方針

患者さんの健康を第一に考え、多職種連携・チーム医療を推進し、丁寧なインフォームド・コンセントを重視して、安全で安心な高度な医療の提供を常に心がけています。

■対象疾患

親知らず、口腔粘膜疾患、口腔がん、顎変形症、良性腫瘍・嚢胞・外傷・炎症、顎関節疾患、インプラント前治療、スポーツ歯科(マウスガードの作製)、ドライマウス

■主な検査

唾液量検査、味覚検査、精密触覚機能検査、生検など

■学会施設認定

- 公益社団法人日本口腔外科学会ほか多数

矯正歯科

学童期以降の幅広い年齢層を対象とした歯列矯正を専門に行っています。矯正治療への不安を少しでも減らすように、丁寧なカウンセリングと検査結果の詳細な検討を行い、治療効果の得られやすいスタンダードな装置を用いた治療を心掛けています。また、治療結果に不安が残るアライナー型矯正装置は使用せず、精密なワイヤー屈曲技術が求められるマルチブラケット装置を用い、より確実な治療結果を追求しています。

■得意分野

通常では治療困難な歯列不正を中心とした矯正治療を行っています。小児期の反対咬合や上顎前突などの歯列不正にも積極的に対応しています。

■診療体制

矯正歯科外来を中心とした診療で担当医制です。
[初診]月曜～金曜:9:00～16:30(最終受付)、土曜:9:00～11:00(最終受付)
予約制で紹介状なしでも初診受診可能(※転院を除く)ですが、検査や治療は平日の時間帯です。

■診療方針

- ◆丁寧なカウンセリング
初診カウンセリングは、日本矯正歯科学会の認定医・指導医資格のスタッフが時間をかけて行います。
- ◆多角的な検査と検討
検査では、歯並びや顎顔面骨格の形態分析、成長分析、必要に応じてマルチブラケット治療後の歯列予測などを行い多角的に診断し治療方針を検討します。検査後の全症例は、局内検討会で詳細に検討され科長で最終確認し、総合的な治療方針をリスクも含め十分ご説明します。
- ◆口腔のQOLの向上を目指した矯正治療
スタンダードで確実な治療効果が見込める装置を優先的に使用



科長 玉置 幸雄



矯正歯科外来の診察風景

します。その他、口腔外科と連携した顎変形症治療、形成外科と連携した口唇口蓋裂治療を積極的に行っております。

■対象疾患

反対咬合(下顎前突)、上顎前突、叢生(ガタガタ、八重歯)、開咬・過蓋咬合、埋伏犬歯の開窓後牽引誘導、重度反対咬合や顔面非対称などの顎変形症、口唇口蓋裂に伴う歯列不正

■主な検査

頭部エックス線規格写真検査、埋伏犬歯・過剰歯の3次元歯科用コーンビームCT検査、顎運動検査、手部エックス線写真による成長分析、顎態模型と治療後歯列の予測模型の作製

■主な治療

成長期・成人の歯科矯正用アンカースクリューを用いたマルチブラケット治療、小児期の床装置などを用いた顎成長や歯の萌出誘導、上顎前方牽引装置など顎整形装置による骨格性成長誘導、外科的矯正治療(顎変形症)の術前・術後矯正治療、口唇口蓋裂治療など
※顎口腔機能診断施設、自立支援指定医療機関

■学会施設認定

- 日本矯正歯科学会認定基本研修機関・臨床研修機関

小児歯科

近年、小児歯科受診の『主訴』はう蝕からさまざまな疾患へとシフトしています。う蝕治療が主であった25年前と比較すると、う蝕治療の割合は減り、外傷や過剰歯や粘液嚢胞の摘出、小帯切除など口腔外科的治療、そして咬合誘導に対する主訴の増加がみられています。小児歯科専門医療機関として、小児の口腔に関わる全ての領域への対応を心がけ、子ども達の全身の健康な成長発達に貢献できるよう日々の診療にあたっております。

■得意分野

【**小児一般歯科治療**】地域診療所から依頼される不協力的低年齢児が多く来院しています。行動変容を促しながら、外来診療を中心に子ども達に寄り添った診療を行っておりますが、症例によっては、専門機関として全身麻酔下での集中歯科治療を施行する場合もあります。【**口腔外科的疾患**】過剰埋伏歯、顎骨腫瘍・嚢胞の抜去や摘出、小帯異常、唾液腺疾患への対応を行っています。口腔外科とも密接に連携しております。【**乳歯早期喪失や永久歯の萌出障害への対応**】乳歯列期、混合歯列期において、健全な永久歯列の完成を目標とした咬合誘導を行っています。Ⅱ期治療が必要な症例は、矯正歯科へとスムーズに移行できる体制を整えております。

■診療体制

診療は担当医制で行っております。また、日本小児歯科学会小児歯科専門医を育成するための認定機関であり、3名の専門医指導医が在籍しています。新患として来院される患者さんは、すべて専門医指導医とのカンファレンスによって治療方針が決定されます。診察の待ち時間を可能な限り少なくし、子ども達、保護者のストレスを軽減するため、診察は予約制としております。紹介状の持参が無い場合でも初診からご予約いただけます。

■診療方針

- エビデンスにもとづいた診断および治療計画の立案
週に1度のカンファレンスを通して、客観的な診断に基づいた、適正な治療計画の立案を行います。



科長 岡 暁子



小児歯科外来

- 子ども達、そして保護者に対する十分な説明と配慮
保護者だけでなく、子ども達本人にも治療の必要性を丁寧に説明し、治療に対する不安をできるだけ減らすことを心がけております。
- 病診連携を充実させ、子ども達の口腔管理の継続を実現
専門的な処置が終了した場合は、地域診療所との連携ネットワークを通して、子ども達と保護者の負担を軽減しながら、成長発達を促していけるよう地域包括型医療へ貢献していきたいと考えております。

■対象疾患

う蝕(特に低年齢・不協力児への対応)・顎骨腫瘍および嚢胞・口腔軟組織疾患・乳歯早期喪失および永久歯萌出障害・口腔機能発達不全症など

■主な検査

エックス線検査

■主な治療

う蝕予防・治療および健診・咬合誘導(噛み合わせの治療)・外来小手術(埋伏歯抜歯や軟組織疾患への対応などの外科的処置)・筋機能訓練・小児スペシャルニーズへの対応

■学会施設認定

- 日本小児歯科学会認定指導施設
- 日本小児口腔外科学会認定指導施設

小児口腔外傷センター

近年、小児の歯の外傷は顕著に増加しています。我々が行った実態調査でも乳歯・永久歯ともに外傷を主訴に来院する小児は増加傾向にあります。歯の外傷は予測できないことから、2018年10月に発足した、小児口腔外傷センターでは予約外、時間外においても小児外傷歯に対して診療を行っています。受傷様式によって、顎骨骨折や軟組織損傷などの急性期は口腔外科医が中心となって対応し、歯内療法、咬合管理等の慢性期に移行してからは、小児歯科、さらには歯内治療科への転科といった適切な専門診療科が連携して治療するというシステムを構築しております。



センター長 岡 暁子

■得意分野

乳歯・幼若永久歯の外傷への対応 軟組織損傷および裂傷等への対応 顎骨骨折への対応

■診療体制

急患として来院された場合は、急患当番医が担当となります。過去の受傷についてのご相談は、ご予約いただいたほうがスムーズに診察へ移行できます。また、前医で撮影されたエックス線などの検査資料を持参していただくことも可能です。

■診療方針

緊急時でも的確な検査を行い診断し、長期的な視野で治療方針を決定する
永久歯については、歯を保存することを第一にさまざまな角度から治療方針を決定する
症状および予後についての丁寧な説明を行う

■対象疾患

概ね0～15歳までの小児の口腔外傷を対象としています。

■主な検査

口内法、パノラマエックス線撮影 歯科用コンビームCT 電気歯髓診断など

■主な治療

歯の再植・固定 歯内療法、軟組織縫合、長期的な経過フォロー

■学会施設認定

- 日本外傷歯学会認定指導施設

口腔医療センター

口腔医療センターは、「口腔医学」の理念に基づいた歯科医療を実践するための診療施設として平成23年12月博多駅前のビル1Fに開設されました。以来、博多駅周辺の近隣歯科医院と連携することで地域医療に貢献し、各種講習会の開催を通して歯科医療従事者の生涯学習の拠点としての役割も担ってきました。この度、博多駅前再開発事業によりビル取壊しが決定したため令和5年3月末日に閉院し、本学医科歯科総合病院内に移転しました。

■得意分野

口腔外科、口腔インプラント、歯周病、審美的歯冠修復、欠損部補綴、歯内治療、ホワイトニング、睡眠時無呼吸症候群に対するマウスピース作製等

■診療体制

スタッフは歯科医師10名(教授3名、准教授1名、講師5名、助教1名)、歯科衛生士9名;ほとんどの歯科医師は、日本歯周病学会 歯周病専門医・指導医、日本歯科保存学会 保存治療専門医・指導医、日本顎顔面補綴学会 認定医 日本補綴歯科学会 専門医・指導医、日本顎顔面インプラント学会 認定指導医、日本口腔外科学会 専門医・指導医、等の有資格者です。



センター長 泉 利雄



口腔医療センタースタッフ全体

■診療方針

患者さんがセンター内で総合的に処置を受けるため、処置ごとに診療科を変える必要がなく（例えば歯周病の治療を歯周病科・補綴処置を補綴科・抜歯を口腔外科等）、治療を計画的・効率的に進めることができるという利点があります。また、福岡医療短期大学3年生・専攻科学生・研修歯科医の教育にも力を入れています。

障害者歯科

脳性麻痺等の身体障害、自閉スペクトラム症等の発達障害、知的障害、精神障害を伴う患者さんを対象に専門的歯科治療を行っています。また、当初必要な治療を行うだけではなく、継続的な口腔管理によって長期にわたり口腔の健康を維持していくことも重視しています。



科長 森田 浩光



全身麻酔下での診療風景

■得意分野

知的障害や自閉スペクトラム症のほか、脳性麻痺等の身体障害を伴う患者さんの歯科診療への導入から治療を行うにあたり、障害の特性に合わせた心理的対応や姿勢への配慮等を高い専門性をもって行っています。

■診療体制

日本障害者歯科学会認定医・専門医の資格を有しているか、それを目指している歯科医師が診療にあたります。また、歯科衛生士は障害者歯科診療の経験が豊富です。全身麻酔下歯科治療は週1例、静脈内鎮静法下歯科治療は週数例の予約枠を設けています。

■診療方針

全身麻酔や静脈内鎮静法下での歯科治療だけでなく、行動

心理学の知見を応用した行動変容への取り組みにも力を注いでいます。

■対象疾患

- 身体障害(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、脳性麻痺等)
- 知的障害(ダウン症候群ほか各種症候群・疾患を含む)
- 発達障害(自閉スペクトラム症等)
- 精神障害(統合失調症やパニック障害等)

■学会施設認定

- 日本障害者歯科学会
- 日本有病者歯科医療学会

口腔放射線診断科

口腔放射線診断科は最新の診断機器を用いて、歯だけでなく、歯肉、顎骨、顎関節、舌、頬粘膜など口腔を1つの単位として総合的な検査と診断を行っています。撮影時には検査目的や方法などをお伝えし、検査の不安を取り除くように心がけています。また、画像診断は治療の入り口であるため、検査後の診断結果が正確かつ早急に依頼医に届くように、積極的に学会や勉強会に参加をして日々研鑽を積んでいます。



科長 香川 豊宏



診断風景

■得意分野

口腔領域に留まらず、頸部や副鼻腔など、顎顔面部の疾患を診断します。

■診療体系

放射線診断科は、一般的なエックス線撮影からCT、MRI、超音波装置といった最新の医療機器を備えています。これらの機器を用いて顎顔面部の画像検査を行います。検査後、すべての検査結果については、専門医資格を持った歯科放射線科医が診断レポートを作成します。また、他の病院からの依頼による種々の検査や画像診断も行っています。
現在、歯科放射線学会の専門医が3名、常勤で勤務しております。

■診療方針

一つの疾患でも、患者さんごとに部位や大きさ、性状は異なります。そのため、依頼された検査を単にこなすのではなく、症

状や部位に応じて依頼医と相談し、撮影方向や被曝線量を考慮します。このようなカスタマイズにより、患者さんごとにオーダーメイドの検査を行い、正確な診断を目指します。

■対象疾患

歯源性嚢胞、歯源性腫瘍、骨折、系統疾患など

■主な検査

口内法、パノラマエックス線撮影法、頭部エックス線規格撮影、頭部一般撮影、歯科用コンビームCT、全身用CT、MRI、超音波検査

■主な治療

放射線治療は行っておりません。

■学会施設認定

- NPO 法人日本歯科放射線学会

歯科麻酔科

手術や歯科治療のための全身麻酔や通常では困難な歯科治療のために精神鎮静法を用いた管理を行っています。さらに顎顔面領域の痛みや麻痺に対してペインクリニック診療を行っています。

■得意分野

手術を受ける患者さんには丁寧に説明を行うとともに、全身状態に応じた麻酔法、麻酔管理法を行っています。インプラントなど比較的大きな外来手術、高血圧や狭心症などを合併する患者さんの歯科治療、あるいは歯科治療に対する恐怖や嘔吐反射の強い患者さんの歯科治療に対し精神鎮静法を行っています。精神鎮静法は静脈麻酔薬であるプロポフォールを使用した静脈内鎮静法を行っています。質の高い鎮静レベルが得られるようになりました。血中濃度を計算しながら、投与中の血中濃度や覚醒までの時間を推定することも可能です。ペインクリニックでは三叉神経ニューロパチー、三叉神経痛、顔面神経麻痺、など顎顔面領域を中心とした疼痛性疾患や麻痺性疾患の治療を行っています。星状神経節ブロック、近赤外線照射やキセノン光照射による理学療法および薬物療法を行っています。

■診療体制

日本歯科麻酔学会指導医、日本歯科麻酔学会認定専門医・認定医を中心に安全な全身麻酔管理や精神鎮静法を行っています。精神鎮静法は火曜日、木曜日、金曜日に行っています。さらにペインクリニック診療も行っております。



科長 池田 水子



静脈内鎮静法

■対象疾患

全身麻酔は口腔外科手術や局所麻酔だけでは治療が困難な小児歯科や障害者歯科の患者さんの歯科治療が対象です。精神鎮静法は歯科治療恐怖症や異常絞扼反射、高血圧や心疾患を有するなど通常の歯科治療が困難な患者さんが対象です。ペインクリニックは三叉神経痛などの顎顔面領域の痛みや歯科治療後のしびれが対象です。

■主な治療

全身麻酔は吸入麻酔法や全静脈麻酔法を行っています。手術室には最新の患者監視装置を備えており、安全な麻酔管理を行っています。必要場合は侵襲的なモニタリングも可能です。精神鎮静法は主に静脈内鎮静法を行っています。ペインクリニックでは神経ブロックや薬物療法、光線治療を行っています。

■学会施設認定

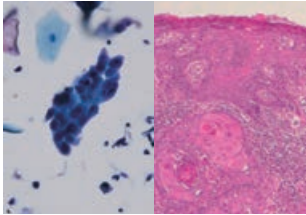
- 日本歯科麻酔学会指導施設

口腔病理診断科

口腔病理診断科では、質の高い病理診断を行うことで患者さんによりよい医療を享受していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。



准教授 岡村 和彦



口腔癌(扁平上皮癌)の細胞診(左)と組織像(右)

■概要

病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断(例えば口腔癌などの癌病変)および活動性評価(例えば癌では浸潤度、転移の有無など)を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を決めるうえでの重要な情報を提供することを目的としています。また、術中迅速診断では病理診断の情報を術者にその場で提供することで、その場に即した手術の方向性を決めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。

■対象疾患

歯科口腔領域の疾患を対象に、歯科の各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本に対して病理診断を行っています。

■得意分野

病理および口腔病理専門医が相互にダブルチェック体制を組んで正確、迅速な診断を行うよう心がけています。特に、口腔癌、歯源性腫瘍の診断病理に力を入れています。診療科との症例検討カンファレンスを行い他科専門医との意見交換も重視しています。また、近年になり口腔癌の侵襲の少ないスクリーニング検査として口腔細胞診が普及してきました。当院においても口腔癌の早期発見のために細胞診にも力を入れています。

■診療体制

スタッフ2名(以下の学会専門医・認定医)が診療にあたっています。日本病理学会認定口腔病理専門医・研修指導医(1名)、日本臨床細胞学会認定 細胞診専門歯科医(1名)、死体解剖資格認定医(1名)、日本障害者歯科学会・認定医(1名)

| 診療部門 | Clinical Division |

医科診療部門

Medical Clinics

内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病内科

内科全般を診療していますが、特に脳血管障害、循環器疾患、糖尿病、腎疾患を専門としており、緊急入院にも対応しています。糖尿病については、周術期の合併症評価やコントロール目的の入院に加えて、教育入院も行っています。睡眠時無呼吸症候群の診断と治療はPolysomnography 検査入院に対応しており、骨塩定量(DEXA 法)による骨粗鬆症の診療や禁煙外来も行っています。また、耳鼻科と共同して嚥下障害の精密検査・治療を進めており、老人保健施設や指定介護老人福祉施設(特養)を関連施設として有することで、超高齢化社会に対応した連携医療に取り組んでいます。

■対象疾患

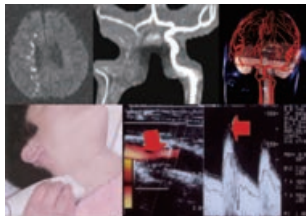
- 脳血管障害:脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頸動脈狭窄・閉塞症など
- 循環器疾患:治療抵抗性高血圧、虚血性心疾患、急性および慢性心不全など
- 糖尿病:1型糖尿病、2型糖尿病、二次性糖尿病など
- 腎疾患:無症候性血尿、蛋白尿、腎炎、電解質異常、急性および慢性腎不全など

■アピール・得意分野

- 頭部MRIやCT、超音波検査などを迅速に行う体制が整っています。
- 糖尿病の治療・教育入院を行っています。



科長 大星 博明



頭部MR・頸部血管エコーによる脳梗塞の検査

- 常勤の内科系学会認定の各種専門医が、それぞれの専門的診療にたずさわっています。
- 高齢者が有する複数の疾患に対して、包括的な診療を行っています。

■学会施設認定

- 日本老年医学会
- 日本高血圧学会

■学会認定専門医

- 日本内科学会
- 日本脳卒中学会
- 日本神経学会
- 日本循環器学会
- 日本糖尿病学会
- 日本腎臓病学会
- 日本透析学会
- 日本老年医学会

呼吸・循環器科

呼吸器は疾患の種類が多く、主な疾患としては気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性気管支炎、肺炎、間質性肺疾患、肺がんなどがあります。これらの疾患を正しく診断し、適切な内科的治療を提供するのが呼吸器内科の役目です。循環器内科は、高血圧、糖尿病、脂質異常、肥満といった生活習慣病から、心筋梗塞や弁膜症、不整脈等に起因する心不全を担当します。睡眠時無呼吸症候群についても検査治療を行います。



科長 松元 幸一郎



教授 樗木 晶子



教授 得能 智武



診療で使用する吸入薬

■得意分野

呼吸器疾患の治療には吸入薬を使用することが多く、多種類の吸入薬があります。各疾患に応じた吸入薬を選択し、薬剤師と連携して吸入方法を丁寧に指導しています。**【気管支喘息】**子供から高齢者まで幅広い年齢層で生じ、息苦しい発作を繰り返します。アレルギーや大気汚染(PM2.5や黄砂、光化学スモッグ)、気候変化などが発作の引き金になります。定期的な吸入薬の使用により改善が期待できます。**【慢性閉塞性肺疾患(COPD)】**喫煙によって次第に肺の構造が崩れ、酸素を取り入れる動きが低下します。同時に息切れが進行し、日常生活にも支障をきたすようになります。禁煙と定期的な吸入薬の使用により改善が期待できます。**【慢性的咳】**2カ月以上続く咳を慢性 咳と呼びます。気管支喘息やCOPD、間質性肺炎、肺がん、肺結核などが咳の原因となりますが、明らかな原因が特定できない慢性咳嗽もあります。丁寧な診療で原因を探して、咳が軽減できるように尽力いたします。**【心不全】**心不全の時の息切れは呼吸器の症状と区別が難しいですが、呼吸・循環器科では正確に診断します。**【狭心症】**典型的な胸の苦しさを訴える方から、はっきりしない症状まで様々です。患者さんの訴えに耳を傾けて丁寧に診察いたします。

【不整脈】動悸も様々です。不整脈も安全なものから、危険なものまで色々ありますので適切な対応をいたします。

■診療体制

【呼吸・循環器科】初診・再診ともに水曜日、木曜日の午前中に松元が担当いたします。
初診・再診ともに水曜日の午前、午後。

■主な対象疾患

気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支炎、肺炎、間質性肺疾患、慢性咳嗽
高血圧、糖尿病、脂質異常、心筋梗塞、狭心症、心臓弁膜症、不整脈等
またこれらに伴う心不全
睡眠時無呼吸症候群

■主な検査

胸部単純X線検査、CT、MRI、呼吸機能検査、喀痰検査、血液検査(白血球分画、IgE値、各種アレルギー検査)
心電図、24時間心電図、運動負荷心電図、心エコー、下肢血管エコー、脈波検査(血管年齢)、冠動脈CT、睡眠時無呼吸症候群検査(終夜ポリソムノグラフィ)

心療内科

心療内科は「こころ」の面から「からだ」の症状を診る内科です。内科医としての技術を基礎に、さまざまな「こころ」や「からだ」の悩みを持っている患者さんのお話をお聴きして、心身両面からの治療を行っています。



科長 金光 芳郎



診療風景

■対象疾患

心療内科でみることの多い病気には、高血圧症、糖尿病、肥満などの生活習慣病、気管支喘息、胃十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、頭痛、自律神経失調症などがあります。これらの病気で、起こる原因やなかなか良くならない原因に、心理社会的要因やストレスが関係しているものを総称して「心身症」と呼びます。

■アピール・得意分野

心療内科では、内科的な疾患を中心に診療していますが、一般の内科と違うところは、身体をみながら常に患者さんの心や社会生活の面に注意を向けていることです。精神科と違うところは、心と同時に身体に配慮していることです。長引く症状があってもそれがストレスからくるものであるとか、心理的な原因であるということは、本人自身はなかなか気が付かな

外科・消化器科

食道、胃、小腸、大腸、肛門・肝臓、胆嚢、膵臓・乳腺の診療と手術に加えて、日本人の死因として最も多くなったがんに対する薬物治療(化学治療)を行っております。ほとんどの食道、胃、小腸、大腸、肛門・肝臓、胆嚢、膵臓に対する手術は体に優しい内視鏡下手術を行っており短期間の入院で早期の社会復帰を可能としています。

■アピールポイント・得意分野

胃・小腸・大腸の内視鏡下手術は吻合まで全て腹腔内で行う完全腹腔鏡下手術を行っております。鼠径ヘルニアは腹膜を開くことなく、再発の可能性が限りなくゼロに近いTEP法(完全腹膜外修復法)を行っています。小さな肝腫瘍に対しては完全腹腔鏡下肝切除を行い、胆嚢摘出術にはより低侵襲な細径鉗子を用いて行っています。乳がん手術は「無用な切除、郭清」は行わない方針で当院では、ICG法による腋窩リンパ節生検を行い、術中迅速病理診断にて転移を認めなかった症例では腋窩リンパ節郭清を省略し、リンパ浮腫等の合併症の減少に努めています。痔疾患に対しては通常の手術に加えてモリコーンやジオン注射法(四段階注射法)を導入し痛みの少ない治療を目指しております。食道がん、胃がん、大腸・直腸がん、膵がん、乳がんに対する、術前化学治療、術後の補助化学治療、手術不能進行・再発がんに対する化学治療を外来および入院で行っています。



科長 池田 哲夫



鏡視下手術風景

■対象疾患

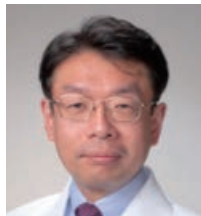
消化管疾患:食道がん、胃がん、大腸・直腸がん、小腸腫瘍
肝胆膵疾患:胆石症、胆のうポリープ、肝腫瘍、肝がん、膵がん、膵嚢胞性腫瘍、胆道がん
ヘルニア:鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニア
乳腺疾患:乳がん、乳腺炎症性疾患
肛門疾患:痔核、裂肛、肛門周囲膿瘍、痔ろう、脱肛
その他:尿管管遺残症

■学会資格

【学会専門医】
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝・胆・膵外科学会高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本乳がん学会乳腺専門医、マンモグラフィ読影医
【学会施設認定】
日本外科学会関連施設、日本消化器外科学会関連施設、日本大腸肛門病学会関連施設、外科周術期感染管理教育施設

形成外科・美容外科

形成外科では老化や外傷、治りの悪い傷により生じた異常、変形、不満足な状態をレーザー治療や手術、その他さまざまな方法で本来あるべき人体の“形”に整えることを主な目的としています。



科長 萩家 康弘



レーザー治療の様子



レーザー外来小手術室

■得意分野

- 1) 老化にともなう変形に対する治療(抗加齢美容医療)
- 2) 「やけど」や「顔のケガ」のような外傷の治療
- 3) 褥瘡や治りの悪い傷(難治性潰瘍)など創傷管理・治療
- 4) 美容医療

■診療体制

初再診とも月曜日から金曜日まで完全予約制で診療しています。

■診療方針

患者さんの生活の質を落とさないように最も適した治療について十分に時間をかけて説明を適切に行えるように完全予約制としています。美容医療の中には「わきが」や眼瞼下垂のように保険診療が適用されるものもあるのでご遠慮なくお問い合わせください。

■主な治療

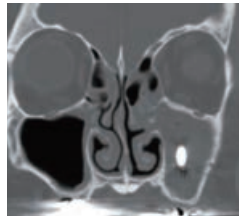
ボトックス注射、ヒアルロン酸・ハイドロキシアパタイト注射、内服療法、外用療法、レーザー・光治療、しわとり手術、眼瞼下垂・二重瞼手術、きずあとの瘢痕形成術
皮膚悪性腫瘍・ほくろなど良性腫瘍に対する手術、局所皮弁・植皮術による再建手術
難治性皮膚潰瘍に対する陰圧閉鎖療法
わきが手術・陥入爪治療

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は、首から上の領域で、頭髪・脳・眼・頸椎などを除いた部位の疾患を担当しています。扱う疾患は、中耳炎・副鼻腔炎・扁桃炎などの炎症性の疾患から、鼻副鼻腔、咽喉頭、頸部などに発生する腫瘍、外傷、先天異常など種々の病気に対しても投薬や外科的治療で対応しています。



科長 山野 貴史



上顎洞内の歯科インプラント異物



内視鏡下鼻副鼻腔手術

■得意分野

病院の特性上、歯科からの紹介の占める割合が他施設と比較して高く、摂食嚥下障害、音声構音障害、歯性上顎洞炎を含めた鼻副鼻腔疾患、耳下腺・顎下腺などの唾液腺疾患など、境界領域疾患の対応に力を入れています。

■診療体制

常勤3名(うち専門医2名)、非常勤1名体制となっています。さらに当院の言語聴覚士は2名とも耳鼻咽喉科所属であり、診療科としては6名のチームとなります。

■診療方針

みみ、はな、のどすべての耳鼻咽喉科領域の疾患に対して、急性期の炎症疾患から慢性の疾患に対して診療にあたります。特に境界領域の疾患に対しては、他科と協力して治療を行うように心がけています。

■主な検査

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、喉頭ストボスコピー、純音聴力検査、語音聴力検査、補聴器フィッティング、平衡機能検査、頭頸部腫瘍に対するエコー、CT、MRI

■主な治療

摂食嚥下障害に対するリハビリテーションおよび嚥下機能改善手術などの外科的治療、歯性上顎洞炎や歯科インプラントトラブルに対する内視鏡下鼻副鼻腔手術、いびきに対する口蓋扁桃摘出および軟口蓋形成術、唾石に対する内視鏡下での摘出、耳下腺腫瘍、甲状腺腫瘍に対する神経モニター下での外科的治療

■学会施設認定

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

摂食嚥下・言語センター(ことばと飲み込みのケアセンター)

摂食嚥下・言語センター(ことばと飲み込みのケアセンター)は、医師、歯科医師、言語聴覚士、看護師、歯科衛生士、管理栄養士等で連携して、飲み込みの問題に対して、各職種の特徴を生かした治療を行います。



センター長 山野 貴史



嚥下内視鏡検査の様子



嚥下造影検査の様子

■得意分野

摂食嚥下障害例に対して、全例に嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査の評価で、治療方針を決定します。軽症例に対しては、外来通院での治療・リハビリテーションを積極的に行っています。近年有効性が報告されている、ダブルバルーンを使用したバルーン訓練や干渉波電気刺激装置も導入しています。リハビリテーションのみでは効果の乏しい重症例に関しては、嚥下機能改善手術など外科的治療にも対応しています。関連施設への多職種でのミールラウンドも行っています。

■診療体制

嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、外科的治療(耳鼻咽喉科医)、リハビリテーション(言語聴覚士)、口腔のケア(歯科医師、歯科衛生士)、食事介助(看護師)、食形態の指導(管理栄養士)などで対応しています。

眼科

白内障・緑内障・糖尿病網膜症・網膜剥離などの眼疾患全般について、最新の検査・治療機器を用いて診断・治療を行っています。特に加齢黄斑変性をはじめとする眼内血管新生性疾患については最新の手法を用いた診断、治療が行える体制を整えております。

■対象疾患

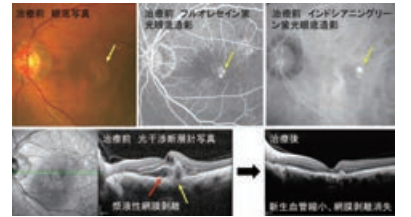
- 白内障
- 緑内障の薬物療法および手術治療
- 糖尿病網膜症、網膜血管閉塞症に対する薬物療法、レーザー治療、硝子体手術治療
- 加齢黄斑変性、近視性脈絡膜新生血管、網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫に対する診断と薬物療法
- 黄斑部疾患の診断と治療
- 黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離に対する硝子体手術治療
- ぶどう膜炎に対する診断と薬物療法

■アピール・得意分野

白内障手術は日帰り手術か入院手術を患者さんの状況に合わせて行っています。全身麻酔での手術も可能です。緑内障手術や網膜硝子体手術は入院で行っています。網膜硝子体



科長 大島 裕司



滲出型加齢黄斑変性に対して抗VEGF療法を行った症例

疾患の診療に力を入れ、多数の検査機器を駆使した手法を用いてより正確な診断、治療が行える体制を整えています。特に滲出型加齢黄斑変性をはじめとする抗血管新生療法などの網脈絡膜疾患の治療は、患者さんの背景を考慮し、より長期に視力維持ができるような個別化治療をめざしております。主な検査装置として、走査型超広角眼底撮影装置、レーザー走査型眼底撮影装置、光干渉断層撮影装置(OCT)、超音波断層撮影装置、レーザー眼軸長測定装置、角膜形状解析装置、角膜内皮撮影装置、自動視野計などがあります。

■学会施設認定

- 日本眼科学会

小児科・神経小児科

小児一般診療に加え、小児神経疾患を対象に専門診療を行っています。神経小児科では、けいれん、運動・知能・感覚・行動または言葉の障害など脳、神経、筋に何らかの異常が疑われる小児の診断、治療、指導を行っています。



科長 鳥巢 浩幸



小児科外来の待合

■得意分野

プライマリ・ケアを中心とした小児診療に加えて、小児神経疾患(てんかん、神経発達症など)の診療に力を入れています。

■診療体制

一般外来(平日午前):日本小児科学会 小児科専門医が担当します。

神経・発達外来(完全予約制):日本小児神経学会 小児神経専門医が担当します。

■診療方針

1. 子どもと家族の権利を尊重し、十分な説明を行い納得いただける小児医療に取り組みます。
2. 子どもたちへの“思いやり”を基本に、安心・安全な医療を提供します。
3. 子どもたちの成長・発達に応じた質の高い医療をめざします。

4. 地域や院内他部門との緊密な連携をはかり、信頼が得られる小児医療に努めます。

■対象疾患

小児疾患一般、小児の発作性疾患(熱性けいれん、てんかんなど)、小児の発達関連疾患(知的発達症、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症など)

■主な検査

神経放射線学的検査:CT、3T-MRI
脳波検査
心理検査:WISC-IV、田中ビネー知能検査V、Vineland-II適応行動尺度、PARS-TRなど

■学会施設認定

- 日本小児神経学会専門医研修関連施設

整形外科

四肢体幹の運動器疾患に対して、質の高い治療を行うとともに、日常診療全般において安全に留意した治療を行います。手術は基本的に入院にて行います。日帰り入院での手術も行っています。運動器リハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。



科長 西尾 淳



大腿骨頸部骨折 術前Xray



大腿骨頸部骨折 術後Xray

■対象疾患

運動器疾患全般に対応します。骨折や捻挫などの外傷性疾患、スポーツ障害、末梢神経障害、変形性関節症、変形性脊椎症、骨粗鬆症、骨軟部腫瘍、リウマチ性疾患に対して、診断・治療を行います。

■診療体制

常勤3名、非常勤1名の体制です。初診は月・火・水・木・土曜の午前で、平日の午後は完全予約制です。金曜は手術日となっています。土曜は交代制で診療にあたっています。

■得意分野

整形外科全般ですが、主として四肢に発生する腫瘍性疾患です。軟部腫瘍は多数の組織型が存在するため、非専門施設では診断に時間を要したり、結果として不適切な治療が行われたりすることがあります。当院では、画像診断医と緊密に連携し、正確な診断を心がけています。また骨粗鬆症の患者さん

に対して、歯科と連携して包括的な診療を行っています。さらに、骨粗鬆症関連骨折(大腿骨頸部・転子部骨折、橈骨遠位部骨折、上腕骨近位部骨折)の手術加療も行っています。

■以下の学会専門医・認定医がいます

- 日本専門医機構認定整形外科専門医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、各診療科と協力して、疾病により障害が残存、機能が低下した患者さんに対して、症状に応じたリハビリテーション診療を提供し、医療スタッフが一体となって機能回復や社会復帰をサポートしています。スタッフは、理学療法士3名、作業療法士1名で、それぞれ職能を活かし良質で安全なリハビリテーションを実践しています。施設基準は運動器Ⅰ、脳血管疾患Ⅱ、廃用症候群Ⅱ、呼吸器Ⅱ、がんの5種を取得し、外来・入院患者さんへリハビリテーション医療を提供しています。



科長 西尾 淳



リハビリテーション室

■対象疾患

外来では、主に運動器に対するリハビリテーションを行っています。特に骨折や捻挫などの外傷性疾患や、肩の運動制限、頸部痛、腰痛、膝関節痛に対して、運動療法や物理療法を行っています。入院では、運動器疾患はもちろん、内科や外科、歯科の患者さんに対しても主治医の指示のもと、スタッフ間で連携を取り、動作練習や筋力訓練などを施行して機能回復を目指しています。

■アピール

定期的に多職種でのカンファレンスを行い、安全に配慮したリハビリテーションを通じて、さまざまな疾患などにより低下した機能と能力を回復し、残存した障害を克服できるように努めています。

また、以下の資格を有するセラピストが在籍しております。

- 日本理学療法士協会 運動器認定理学療法士
- 日本理学療法士協会 介護予防認定理学療法士
- 日本理学療法士協会 フレイル対策推進マネージャー
- 日本理学療法士協会 介護予防推進リーダー
- 日本理学療法士協会 地域包括ケア会議推進リーダー
- 福祉住環境コーディネーター2級
- 認知症ケア指導管理士(初級)

皮膚科

皮膚疾患全般に対応します。歯科と連携し、歯科金属アレルギーや口腔アレルギー症候群、天疱瘡や類天疱瘡の精査・治療を行っています。大学病院や地域医療支援病院と連携して最新・最良の診断と治療に努めています。

■対応疾患と治療

皮膚がんやヘルペス感染症(顔面帯状疱疹、ハント症候群、カポジ水痘様発疹症)、蜂窩織炎、重症薬疹の入院治療を行っています。皮膚科外来では次のような治療が可能です。
【分子標的薬治療】生物学的製剤(デュピクセント)や内服JAK阻害薬(オルミエント、リンヴォック)によるアトピー性皮膚炎治療、難治性円形性脱毛症治療(オルミエント)、難治性じんましん治療(ゾレア)。生物学的製剤(コセンティクス、トレムフィア、トルツ、イルミア)による乾癬・関節症性乾癬、難治性掌蹠膿疱症治療、内服TYK2阻害薬(ソーテックツ)による乾癬治療。
【光線療法、レーザー治療、その他(自由診療含む)】半身型ナローバンドUVB治療器(JTRAC)・エキシマランプ(フレクシス)によるアトピー性皮膚炎、乾癬、掌蹠膿疱症、白斑および円形脱毛症の紫外線治療。皮膚腫瘍切除、あざ・しみのQスイッチレーザー治療、いぼ・ほくろの炭酸ガスレーザー治療、肝斑のレーザートニング、陥入爪のワイヤー矯正術・フェノール法手術、にきびのケミカルピーリング・LED治療、しみのトレチノイン・ハイドロキノン療法、AGA治療(プロペシア、ザガーロ)。



科長 古村 南夫



半身型ナローバンドUVB治療器(JTRAC)

【特殊検査】皮膚生検による病理組織診断。帯状疱疹・単純ヘルペスの迅速抗原検査。薬剤アレルギーの被疑薬のDLST検査、歯科金属・歯科材料のパッチテスト(試験の性質上、夏季は施行しておりません)。

■アピール・得意分野

歯科金属アレルギーのパッチテスト検査(要電話相談)が可能です。口腔アレルギー症候群・ラテックスフルーツ症候群や、蕁麻疹・アナフィラキシーの診断と精査を福岡病院アレルギーセンターと連携して行っています。難治性口内炎をきたす自己免疫性水疱症(天疱瘡、粘膜類天疱瘡)の自己抗体検査や蛍光抗体法による精査、久留米大学皮膚科と連携した詳細な血清免疫学的検査が可能です。

■学会専門医・認定医

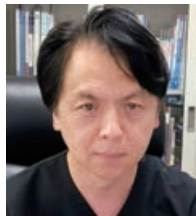
日本皮膚科学会認定:皮膚科専門医3名、美容皮膚科・レーザー指導専門医1名

内視鏡センター

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡と胆道内視鏡検査および治療を行っています。特に近年日本でも増加した、大腸のポリープに対する内視鏡的治療は年々増加しております。急な痛みや出血の症状が出現し不安な患者様には来院当日の緊急内視鏡検査も積極的に行っております。以前に内視鏡検査で「とても辛い」思いをした方、内視鏡が動くたびに嘔吐反射が頻回に起きてしまう方、内視鏡検査に対する恐怖心が強く検査を受ける決心がつかない方などには、鎮静下内視鏡を薦めています。鎮静化内視鏡は、通常の咽頭麻酔(のどの麻酔)の他に、点滴から鎮静剤を投与して「ウトウトしている」状態で内視鏡検査を行うものです。全身麻酔ではありません。心電図・酸素飽和度・血圧・脈拍をモニターしながら検査を安全に行います。

■内視鏡室・装備器具

検査室3室に待合室とトイレ完備の準備室(個室)5室、リカバリールームを用意しています。
内視鏡システム:CV-290、ELUXEO 7000システム、スパイグラスDS 胆管・膵管鏡システム、CV260
上部消化管内視鏡:GIF-H290Z、RG-760Z、GIF1200NS、EG-740N、ダブルバルーンEI-580BT
下部消化管内視鏡:CF-HQ290ZI、PCF-PQ260I、EC-L760ZP-VM
膵・胆道内視鏡:JF-260V、コンベックス走査超音波内視鏡EG-580UT、SpyScope™ DS II



センター長 池田 哲夫



食道のESD(粘膜下層切開剥離術)症例

■アピールポイント・得意分野

早期食道がん・早期胃がんに対しては拡大NBI、超音波内視鏡により適応と判断された病巣に対してはESDを施行しております。大腸内視鏡が受け辛い原因である前処置の煩雑さ、時間がかかる、痛い、を和らげる目的で食物繊維とヨーグルトによる前処置、自宅での下剤内服、水浸法を導入しております。発見されたポリープはできる限り同時にコールドポリペクトミー、EMRを行っております。大腸腫瘍に対しても適応と判断した病巣にはESDを行います。より安全なハイブリッドESDを第一に選択して行っております。胆道系の内視鏡はコンベックス走査超音波内視鏡、ERCP診断だけでなく胆道結石の採石治療および狭窄に対してチューブステント、メタリックステントの留置を行っております。肝内結石に対しては最新のスパイグラスDS胆管・膵管鏡システム(SpyScope™ DS II)で観察下にEHL(電気水圧衝撃波胆管結石破碎)を駆使した採石を行っております。また、消化管再建後の症例にはダブルバルーン内視鏡を用いた診断と治療を行っております。

■学会資格

【学会専門医】日本消化器内視鏡学会専門医・指導医

麻酔科・ペインクリニック

手術や歯科治療のための全身麻酔や通常では困難な歯科治療のために精神鎮静法を用いた管理を行っています。顎顔面領域の痛みや麻痺に対してペインクリニック診療を行っています。

■得意分野

【全身麻酔管理】

口腔外科、障害者歯科、インプラント科、小児歯科、一般外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、形成外科の手術の全身麻酔管理を年間633症例ほど行っています。口腔外科での外傷による急患手術や口腔癌切除、皮弁による再建を含む10数時間におよぶ長時間手術、小児や障害者の日帰り手術等における全身麻酔管理を行っています。手術や歯科治療に対して不安を抱く患者さんには丁寧に説明を行うとともに、全身状態に応じた麻酔管理法を行っています。【精神鎮静法】

歯科治療恐怖症や異常絞扼反射などで通常の歯科治療が困難な患者さんに対しては精神鎮静法を行っています。【顎顔面領域の疼痛治療】

三叉神経ニューロパチー、三叉神経痛、顔面神経麻痺など顎顔面領域を中心とした疼痛性疾患や麻痺性疾患の治療を行っています。治療法としては星状神経節ブロックやトリガーポイント注射、近赤外線照射や低周波治療などの理学療法および薬物療法などがあります。

■診療体制

日本麻酔科学会認定麻酔指導医・専門医、日本歯科麻酔学会認定専門医・認定医を中心に安全な全身麻酔管理を行っています。精神鎮静法は火曜日、



科長 池田 水子



星状神経節ブロック

木曜日、金曜日に行っています。ペインクリニックは医科疾患の診療も行っておりますが予約制です。

■対象疾患

全身麻酔は、外科系手術および局所麻酔だけでは治療が困難な小児歯科や障害者歯科の歯科治療が対象です。精神鎮静法は、通常の歯科治療が困難な患者さんに対して行います。ペインクリニックでは各部位の痛みやしびれに対して神経ブロックや薬物療法、電気治療を行っています。

■主な治療

全身麻酔は吸入麻酔法や全静脈麻酔法を行い、必要に応じて硬膜外麻酔を併用しています。下半身の手術では脊椎麻酔と鎮静法を併用しています。精神鎮静法は主に静脈内鎮静法を行っています。ペインクリニックでは神経ブロックや薬物療法、光線治療を行っています。

■学会施設認定

● 日本歯科麻酔学会指導施設

放射線診断科

令和3年度より、医科歯科総合病院の放射線診断科には医科領域の常勤医として、福岡歯科大学診断・全身管理学講座放射線診断学分野の川波が着任しました。現在は常勤医1名、非常勤医1名(福岡大学放射線科)の体制です。最新のマルチスライスCTや3テスラMRIはもちろん、胸腹部や整形外科領域の単純X線検査、消化管造影検査、マンモグラフィ、超音波検査などを含め、口腔画像診断領域以外の全ての画像検査について報告書作成を行っています。院内とはもちろん、院外との病診連携も積極的に行い、迅速な検査と報告書作成を行います。診療各科の安全で正確な診療の一助となるよう、学会やカンファレンス、勉強会に日々積極的に参加し、診断レベルの維持向上のため研鑽も行っています。

■画像診断機器の種類

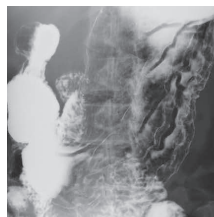
- 256列マルチスライスCT
- 3テスラMRI
- 骨塩定量(DEXA)
- マンモグラフィ
- 超音波検査
- X線造影
- 単純X線検査



科長 川波 哲



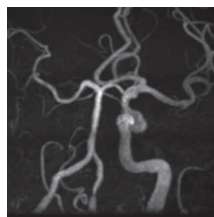
受付の様子



上部消化管造影



冠動脈CT



頭部MRA

■学会認定医・専門医

- 日本医学放射線学会放射線診断専門医
- 日本専門医機構放射線科専門医
- 日本医学放射線学会放射線診断指導医
- 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影試験(A)
- 画像診断管理加算2取得

病理診断科

病理診断科では、質の高い病理診断を行うことで患者さんによりよい医療を享受していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。

■概要

病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の病変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断(例えば口腔癌などの癌病変)および活動性評価(例えば癌では浸潤度、転移の有無など)を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を決めるうえでの重要な情報を提供することを目的としています。また、術中迅速診断では病理診断の情報を術者にその場で提供することで、その場に即した手術の方向性を決めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。

■対象疾患

医科・歯科領域のすべての疾患を対象に、医科・歯科の各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本に対して病理診断を行っています。



准教授 岡村 和彦



顕微鏡画像と連動したオンライン診断システム

■得意分野

病理および口腔病理専門医が相互にダブルチェック体制を組んで正確、迅速な診断を行うよう心がけています。特に、口腔癌、歯源性腫瘍の診断病理に力を入れています。また、診療科との症例検討カンファレンスを行い他科専門医との意見交換も重視しています。

■診療体制

スタッフ2名(以下の学会専門医・認定医)が診療にあたっています。日本病理学会認定口腔病理専門医・研修指導医(1名)、日本臨床細胞学会認定細胞診専門歯科医(1名)、死体解剖資格認定医(1名)、日本障害者歯科学会・認定医(1名)

｜ 支援部門 ｜ Medical support Division ｜

診療支援部門

Medical Support Division

看護部

看護部は、「私たちは、互いを尊重し、安心と信頼に応える看護を提供します」の理念のもとに看護を提供しています。



看護部長 松尾 佳代



教育担当看護部長 伊藤 明美



重症個室での術後看護



研修の様子

■運営体制

診療支援部門副病院長のもと、看護部長2名、看護師主任3名、看護師49名、看護補助者2名の合計56名です。10対1看護を提供する50床の病棟、内科・口腔外科外来、手術室・内視鏡センターの3単位で構成されます。病棟は、平均在院日数が6.9日と病床の回転が速い中、周術期の急性期、小児から認知症の高齢者と幅広い患者さんを対象に看護を提供しています。外来は診療科をローテーションで担当しています。手術室・内視鏡センターでは、内科・歯科の手術の他、内視鏡による検査や処置を担当しています。

■基本方針

1. 患者さんに信頼される安全で安心な看護を提供します。
2. 看護の質の向上のために自己研鑽に努め、ともに学び成長します。

3. 看護の専門性を発揮し、多職種で協働してチーム医療を推進します。
4. 地域の医療・介護・福祉施設と連携し、患者さんの地域での生活を支えます。
5. 組織の一員として、積極的に病院経営に参画します。

■教育

段階的に臨床看護実践能力を修得できるように、クリニカルラダーを基盤とした教育プログラムを実施しています。新人看護師研修に始まり、ラダーレベルに合わせた研修・看護師全員対象の研修や講演会を開催し、主体的に学びを深め、自己のキャリア開発ができる看護師の育成を行っています。

歯科衛生士部

歯科衛生士部はやさしさと豊かな人間性を持ち、思いやりのある対応で患者の皆さまに接し、医療チームの一員として歯科衛生士業務を提供します。



歯科衛生士長
手嶋 直美



病棟専任歯科衛生士による口腔ケア

■運営体制

歯科衛生士部は2023年3月より口腔医療センター移転に伴い43名勤務しています。9つの診療科と手術室に配属し、病棟専任歯科衛生士は入院前から医科歯科入院患者さんに歯科介入を行い、術後の感染予防、退院後のケアまで携わり口腔機能管理に努めています。

■運営方針

1. 温かく思いやりを持った対応で患者の皆さまに接し、医療倫理の向上をめざします。
2. 歯学の高度医療に相応しい知識、技術、態度をもって歯科衛生士業務を遂行します。
3. 医療チームの一員として役割を果たし、地域医療との連携に努めます。
4. 歯科衛生士養成機関として臨床実習の質を高め、有能な歯科衛生士の育成に努めます。

■特色

- 1) さまざまな診療科において歯科診療補助・予防処置・保健指導等の業務を行いながら、乳幼児から高齢者まで生涯にわたってお口の機能の維持、向上に取り組んでいます。
- 2) 2022年における歯科衛生士部実績として歯科衛生専門業務件数28,253件、福岡医療短期大学歯科衛生学科の実習受け入れ延べ人数6,156名、同短大および地域施設への講師派遣30件でした。

■教育

クリニカルラダーを基礎にした教育プログラムを実施し、1年目から3年目、4年目以上と段階に応じて知識と技術を習得後、評価に伴い自己の見直し、研鑽を行っています。

薬剤部（薬局）

薬剤部は本院における医薬品の安全管理・適正使用支援を担う部門として、安全で安心な薬物療法を確保するために、医師・歯科医師・看護師等の医療スタッフとともに組織横断的なチーム医療の中で、「薬の専門家」としての薬剤師の責務を果たすことを目指して活動しています。



薬局長 外尾 典子



調剤室

■運営体制

院外処方せん発行率が98.8%のため、病棟での活動が中心です。病棟では専任薬剤師を配置し、入院患者さんへ患者さん目線に立ちつつ薬学的視点・科学的エビデンスを踏まえた薬物療法に貢献しています。

中央業務では医薬品情報の収集・提供をはじめ、院内での医薬品の管理、調剤、調製にかかわり、病棟薬剤師と相互に協働体制をとっています。

また、注射用抗がん剤の無菌調製業務は、感染対策や安全確保を保つため、薬剤師の専門技術が不可欠な業務として取り組んでいます。

■運営方針

薬剤に関わる医療過誤の防止に努め、医薬品情報を活用し、医療スタッフへ適切な情報を提供することで、有効で安全な薬物療法に貢献します。

■業務内容

内服や外用薬の調剤業務、患者別施用単位別の注射調剤業務、医薬品情報の収集・提供、入院患者さんへの薬剤管理指導業務と病棟薬剤業務、抗がん剤調製・TPN調製、医薬品管理業務、院内特殊製剤の調製、各種チーム医療への参画、コロナワクチン製剤の保管・管理、併設の介護老人保健施設の調剤等

■特色

処方医への疑義照会を通して、薬物療法の有効性や安全性の向上に関わる薬剤関連業務を行っています。また、各診療科のカンファレンスや回診へ参加し、医療スタッフへの情報提供を行うとともに、感染制御チーム(ICT)・栄養サポートチーム(NST)・緩和ケア等のチーム医療にも積極的にかかわっています。

滅菌・器材部

滅菌・器材部は、全ての部署の一次洗浄を廃止、洗浄・組み立て・包装・滅菌を一元的に行っています。医療安全、院内感染防止という重要な役割を担っていることを念頭に活動しています。



部長 中畑 高子



担当 安永 利佳



組み立て室

■運営方針

安心・安全に使用できる医療器材を提供するため、洗浄・滅菌の質の保証、向上を目指します。

■運営体制

管理者1名(看護師)、業務委託業者10名で業務を行っています。

■業務内容

外来(医科・歯科)・病棟・手術室・内視鏡室で使用した歯科器材、医療器材を回収、洗浄・組み立て・包装・滅菌を行い供給しています。器材は、洗浄装置4台、超音波洗浄装置1台、高圧蒸気滅菌装置3台、過酸化水素ガスプラズマ滅菌装置1台を用い、器材に応じた滅菌を行います。(酸化エチレンガス滅菌は外注)

①滅菌

1日1回、ボウイディックテストを実施、滅菌後は、物理学的方

法、化学的方法、生物学的方法の3つで検証し供給しています。滅菌器と生物学的モニタリング器は、年1回の検査を受け検証を行っています。

②洗浄

器械洗浄を原則に行っています。歯科関連の器材は、品種や細かい器材が多いため、紛失や破損防止の工夫を行い洗浄しています。医科関連の器材は、器材によって洗浄方法を選択し柔軟に対応しています。洗浄毎に、試験紙での洗浄チェック、定期的に清浄度試験を実施、洗浄の質を担保しています。

直接的に診療報酬に関わる部署ではありませんが、院内感染防止並びに医療安全のため、また、現場の業務の効率化に貢献できるよう努力しています。

| 支援部門 | Medical support Division |

中央診療施設

Centers for Medical Diagnosis and Therapy

臨床検査室

医科歯科総合病院として医科系および歯科系の診療に必要な臨床検査を、正確かつ迅速に行うことをモットーに、多くの検査を当日検査室内で行っています。時間外の緊急手術や診療にも対応し、良質な医療の提供に貢献することを目標としています。特に細菌検査に関しては、院内で培養・同定・感受性検査を行う体制を整え、迅速な感染症対策に寄与しています。2020年9月の新病院移転に伴ってCBCや生化学検査、免疫検査の機器を更新し、今年度はさらに凝固検査機器の更新も行って周術期などの循環障害に速やかに対応し、ほとんどの項目をon-line 病院情報システムで確認できる体制を整えています。

■業務内容

- 検体検査
 一般臨床検査、血液・凝固検査、生化学検査、免疫学検査、微生物学検査、病理組織学検査・細胞診
- 生理検査
 心臓機能検査、頸部血管・下肢静脈超音波検査、呼吸機能検査、脳波検査など
- 輸血検査
 血液型判定、不規則性抗体スクリーニング、クロスマッチ

■設備

多項目自動血球分析装置、臨床化学自動分析装置、全自動免疫測定装置、自動グルコース測定装置、自動グリコヘモグ



室長 大星 博明



自動分析器

ロビン分析装置、半自動卓上型尿分析装置、全自動遺伝子解析装置、検体検査システム、細菌検査システム、生理検査システム等

■特色

トレッドミル心臓負荷検査、ホルター心電図を予約制で行っています。
睡眠時無呼吸症候群確定診断のためのポリソムノグラフィーを1泊入院で行っています。

■外部精度管理

- 福岡県医師会臨床検査精度管理調査参加
- 日本臨床検査技師会精度管理調査参加

栄養管理室

栄養管理室では『患者の皆さんに安全で質の高いおいしい食事を提供し、栄養面により治療に貢献します』の理念の基、きめ細やかな栄養管理と愛情を込めた食事作りを行っています。



主任 樋口 みどり



元旦



お盆



クリスマス

■栄養管理

管理栄養士が、入院患者さん一人一人の栄養状態を把握して、個人の状態に合わせた栄養と食事のサポートを実施しています。

■チーム医療

- 多職種で連携して入院患者さんのQOLの向上に努めています。
- (摂食・嚥下)嚥下造影検査食作成および検査の立ち会いを行い、食事形態調整のサポートをしています。
- (NST)低栄養や食事摂取不良の患者さんなどに対して毎週1回NSTチームでカンファレンスと回診を行い、栄養のサポートを行っています。
- (褥瘡対策)入院患者さんに対して褥瘡の治療と予防に栄養面よりサポートしています。

■病院食

(一般食) 常食、軟菜食、キザミ食、ミキサー食、幼児食、便秘食、フィット食、嚥下調整食等

(特別食) 糖尿病食、腎臓病食、心臓病食、低脂肪食、脾臓病食、潰瘍食、消化管術後食等
(流動食) 普通流動食、濃厚流動食、経管流動食
※非常時備蓄(患者用、職員用に食料1日3食3日分、水3日分を備蓄)

■栄養指導(外来・入院:予約制)

食事療法を必要とする患者さんに主治医の指示の基、個々の病状に応じた栄養指導を行っています。
●月曜日～金曜日 9:30～11:00 14:00～16:00
●土曜日(要相談) 9:30～11:00 (日・祭日は除きます)

■学生実習

教育施設としての役割を果たせるよう、管理栄養士養成施設より学生の臨地実習の受け入れを行っています。

予防接種センター

予防接種センターは、福岡県予防接種センター機能推進事業により委託された予防接種に関するさまざまな事業を行っています。アレルギーや前回のワクチン接種で副反応が出て、かかりつけの先生がワクチン接種を心配されている方(予防接種要注意者)の相談や接種を行っています。また、県民の皆様へ予防接種に関する正しい知識や情報の提供、医療従事者向けの予防接種に関するさまざまな研修など地域の予防接種の支援機関としての役割を担っています。

■得意分野

- アレルギーなど基礎疾患をお持ちの方や前回の接種で副反応が出て、かかりつけ医療機関での接種を心配されている方への予防接種
- 留学や海外赴任などに際しての渡航ワクチン外来

■診療体制

予防接種外来(完全予約制):日本小児科学会指導医・専門医／日本感染症学会指導医・認定医が担当します。

■診療方針

- (1) 福岡県予防接種センター機能推進事業により委託された次の事業を行います。
 ① 予診を尽くし、十分な説明を行うワクチン接種
 ② 県民・市民への予防接種に関する正しい知識や情報の提供
 ③ 医療相談事業
 ④ 医療従事者向け研修
- (2) 地域の自治体・医療機関と緊密な連携をはかり、信頼が得られる予防接種に努めます。



センター長 岡田 賢司



当院予防接種センターでの医療従事者への接種

- (3) 海外渡航・留学などに対応した渡航予防接種外来を行います。
- (4) 予防接種後の副反応や接種間違い等に対する対応や支援を行います。

■対象疾患

- かかりつけの医療機関での接種を心配されている方(予防接種要注意者)の相談や接種
- 海外渡航／留学に対応した予防接種

■主な検査

アレルギー反応予知のための皮内テストや好塩基球刺激試験

■主な治療

- ストレス関連反応を予防するためのワクチン接種前、中、後での心理的および社会的不安の解消
- 注射時の痛みの軽減

■学会施設認定

- 日本ワクチン学会理事長施設

健診センター

健診センターでは「お口の健康から全身の健康」をめざした予防医学に取り組んでいます。通常健康診断だけでなく、じん肺、脳、胃がん、乳がん、肺がん、心臓、骨粗鬆症、睡眠時無呼吸等の検診も行っています。口腔健診にも力を入れており、昨年度から「お口の健康相談室」(病院長顧問 阿南 壽先生)と「お口の健康指導室」(堀部 晴美先生)を開設し、本年度は詳細な歯科検診サービスも開始しました。また、オリジナル口腔健診ではパノラマX線撮影も行う「う歯・歯周病」検査のみならず「口腔粘膜検査、唾液分泌量や潜血、顎関節検査」も含み、口腔内病変やオーラルフレイルの早期発見ができます。口腔の健康は生活習慣病や認知症・フレイルの予防に繋がりが口腔衛生を推進することによって全身の健康も維持できます。

■得意分野

健診センターの医師は循環器専門医(常勤2人、非常勤2人)が対応し、高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満などの生活習慣病予防は得意分野です。また、乳がん専門医、放射線診断専門医、じん肺診断医をはじめとして本院における総合内科、呼吸・循環器科、内視鏡センター、眼科、耳鼻科、外科などの各診療科や放射線部の協力のもと、専門性の高い健診を行っ



ています。

口腔健診では総合歯科、保存・歯周病科、補綴科、インプラント科等の全面協力のもとに健診を実施し、保健指導も行います。地域の高等学校や幼稚園などの歯科検診もっており、質の高い学校歯科健診を目指し、研究にも繋いでいます。今後も地域に根ざした健診を推進してゆきますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

| 支援部門 | Medical support Division |

事務課

Administration Division

事務課

病院事務課では、患者さんの受診や健康診断に関する業務、医療機器、医療材料、医薬品などの購入に関する業務、建物・設備の維持管理に関する業務など、さまざまな事務処理を行っています。

■総務係

病院の管理運営に関する業務、医療安全管理・院内感染防止対策に関する業務のほか、学園各課との連絡調整などの業務を行っています。

■管理係

健全な病院運営を行うための予算管理、医薬品・医療材料・医療機器等の購入等に関する業務、病院施設の管理および衛生に関する業務のほか、歯科医師の臨床研修関係業務を行っています。

■医事係

患者さんへの受診案内や入院手続き、診療費等の算定、請求および収納に関する患者サービスに関する業務や保険請求に係る施設基準の届出、医事情報の統計に関する業務を行っています。

■医療情報係

病院情報システムの維持・管理、運用に関する業務、診療記録



課長 横大路 智視

総合受付

の開示に関する業務、データウェアハウス活用等のガイダンス、診療データの集計および分析に関する業務を行っています。

■病診連携係

患者さんの入退院支援に関すること、入院中の療養支援に関すること、社会復帰支援に関することなど、患者の皆さまやご家族から、さまざまなお話をうかがい、不安や疑問を解決するためのお手伝いを行っています。お気軽にお声かけください。

■健診センター係

健診センターに係る受診者の受付、案内や受診者情報および診療記録等の保護、管理、統計に関することなど、健診センターの管理運営に係る事務処理全般の業務を行っています。



10. 医療機関の承認・指定状況

Legal Authorization of Medical Institution Designations and Accreditation of Academic Society

1. 医療機関の開設等

区分	開設等年月日
医療法に基づく病院開設	昭和48年 2月21日
臨床修練指定病院	昭和63年10月15日
日本医療機能評価機構 病院機能評価認定	平成20年 5月19日 (平成30年5月11日 2回目更新)
福岡県予防接種センター 指定	平成28年 4月1日

2. 学会認定

[認定施設名]

- 日本外科学会
 - 日本消化器外科学会
 - 日本食道学会
 - 日本眼科学会
 - 日本心身医学会
 - 日本老年医学会
 - 日本高血圧学会
 - 日本歯科保存学会
 - 日本歯周病学会
 - 日本口腔インプラント学会
 - 日本顎顔面インプラント学会
 - 日本総合歯科学会
 - 日本口腔衛生学会
- 日本補綴歯科学会
 - 日本顎関節学会
 - 日本口腔顔面痛学会
 - 日本老年歯科医学会
 - 日本障害者歯科学会
 - 日本矯正歯科学会
 - 日本小児歯科学会
 - 日本歯科放射線学会
 - 日本歯科麻酔学会
 - 日本口腔外科学会
 - 日本がん治療認定医機構
 - 日本有病者歯科医療学会
 - 日本医学放射線学会 (画像診断管理認証施設)

11. フロアマップ

Floor Maps

1F



- i** 総合受付

1 初診・紹介

2 再診

3 入院・面会

4 会計

5 自動計算機

A 内科・外科・整形外科

B 障害者歯科
スペシャルニーズ歯科

C 健診センター

D 放射線診断科
放射線検査

E 生理検査
- 6** 再来受付機

7 A B C 相談室

8 薬局

9 時間外受付

2F



- F** 眼科

G 耳鼻咽喉科
摂食嚥下・言語センター
(ことばと飲み込みのケアセンター)

H 皮膚科
形成外科

J 心療内科

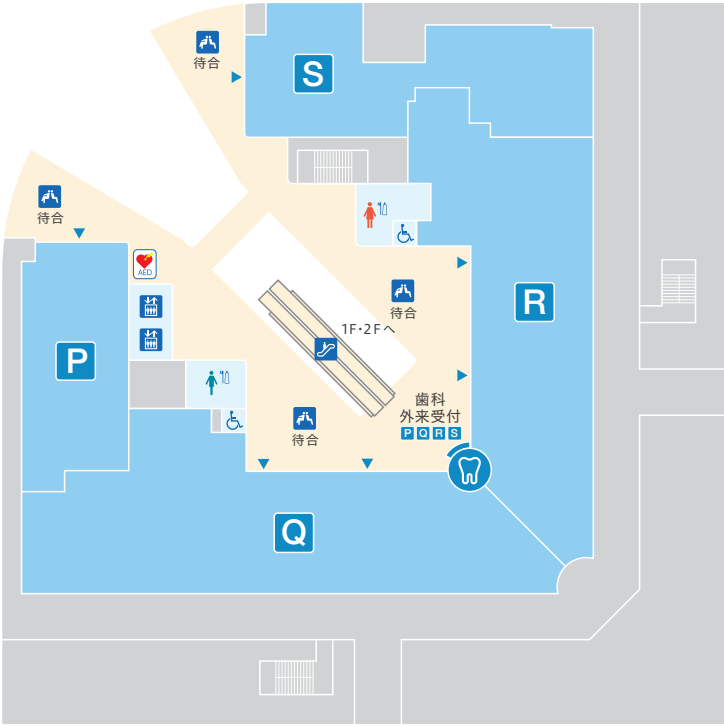
K 矯正歯科

L 口腔外科
スポーツ歯科
顎変形症センター

M 小児歯科
小児口腔外傷センター

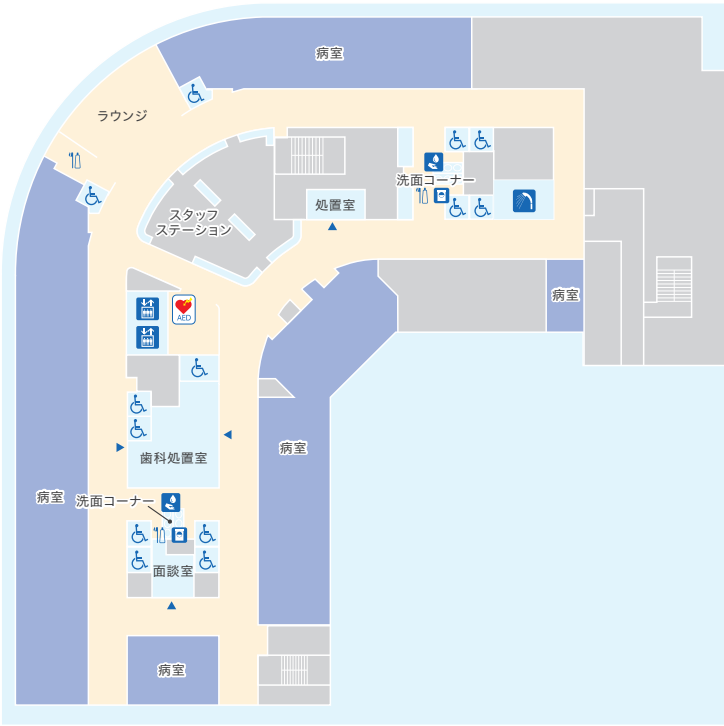
N 小児科
予防接種センター

3F



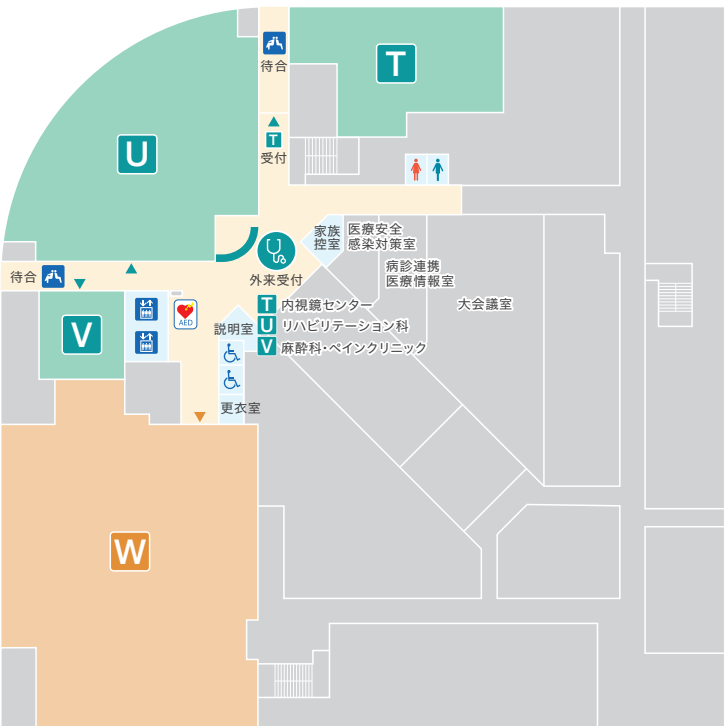
- P Q R S**
- 高齢者歯科
 - 歯科初診
 - 総合歯科
 - 訪問歯科センター
 - 口臭クリニック
 - 歯周病科
 - 保存科
 - 歯内治療
 - 補綴科
 - クラウン・ブリッジ・義歯
 - 美容医療センター
 - 口腔インプラント科
 - 口腔医療センター

5F



- 病室 501～528
- | | |
|-------------|----------|
| ■ 特別1床室 | 1室 |
| ■ 1床室 | 9室 |
| ■ 2床室 | 2室 |
| ■ 4床室(準2床室) | 2室 |
| ■ 重症室(1床) | 2室 |
| ■ 重症室(2床) | 1室 |
| ■ 4床室 | 6室 |
| 計 | 23室(50床) |

4F



- T U V W**
- 内視鏡センター
 - リハビリテーション科
 - 麻酔科・ペインクリニック
 - 手術室

診療科のご案内

- | | | |
|----|--|---|
| 5階 | ■ 病棟(50床) | |
| 4階 | ■ 内視鏡センター
■ リハビリテーション科 | ■ 麻酔科・ペインクリニック
■ 手術室 |
| 3階 | ■ 高齢者歯科
■ 歯科初診
■ 総合歯科
■ 訪問歯科センター
■ 口臭クリニック | ■ 歯周病科
■ 保存科(むし歯)
■ 補綴(入れ歯)科
■ 口腔インプラント科
■ 口腔医療センター |
| 2階 | ■ 眼科
■ 耳鼻咽喉科
■ 皮膚科・形成外科
■ 心療内科 | ■ 矯正歯科
■ 口腔外科
■ 小児歯科
■ 小児科 |
| 1階 | ■ 総合受付
■ 内科
■ 呼吸・循環器科
■ 外科
■ 整形外科 | ■ 障害者歯科(スペシャルニーズ歯科)
■ 健診センター
■ 放射線診断科・放射線検査
■ 生理検査 |

エスカレーターで2階、3階へ (4階、5階(病棟)はエレベーターをお使いください)

病院外観



シンボルマーク

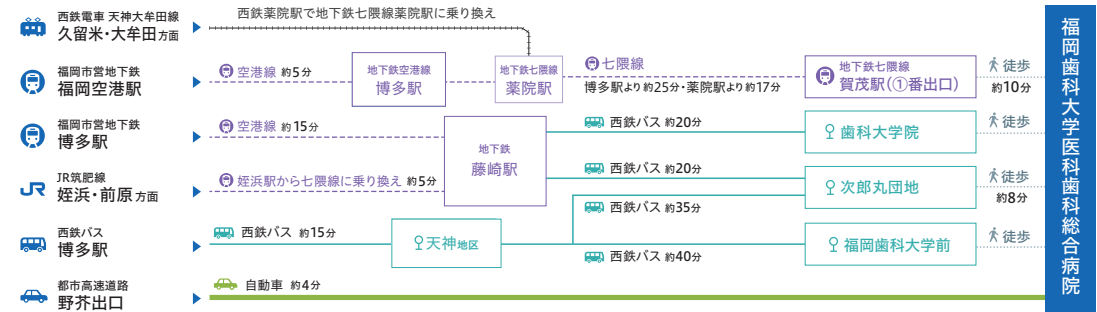


「つなぐ」
患者の皆様とともに病院と地域をつなぐ

アクセスマップ



■病院までのアクセス





一般財団法人 日本医療機能評価機構認定病院

福岡歯科大学 医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
TEL:(092)801-0411 FAX:(092)801-0459
E-mail:byouin@college.fdcnet.ac.jp

<https://www.fdcnet.ac.jp/hos/>

